

# 平成 2 3 年度 大阪湾再生行動計画の実施状況について



元気 UP！関西

平成 24 年 3 月 19 日  
大阪湾再生推進会議

## 目 次

【大阪湾再生行動計画について】 .....	1
1 . 目標の達成状況 .....	6
2 . 行政機関による「大阪湾再生」の目標達成のための積極的な取り組み （平成 23 年度の主な取り組みの概要） .....	23
2-1 陸域負荷削減施策の推進 .....	23
2-1-1 陸域負荷の削減に向けた施策 .....	23
2-1-2 陸域負荷削減以外の施策 .....	35
2-2 海域における環境改善対策の推進 .....	36
2-2-1 水質の改善 .....	36
2-2-2 多様な生物の生息・生育 .....	37
2-2-3 親水性の向上 .....	38
2-2-4 浮遊・漂着・海底ごみの削減 .....	40
2-3 大阪湾再生のためのモニタリング .....	42
2-3-1 環境監視のためのモニタリング .....	42
2-3-2 市民参加によるモニタリング .....	46
2-3-3 大阪湾における汚濁機構をより詳細に解明するためのモニタリング .....	48
2-3-4 情報の共有化及び発信 .....	50
2-4 アピールポイントにおける施策の推進 .....	51
2-5 平成 23 年度の重点的な取り組みへの対応 .....	52
3 . 市民参画による「大阪湾再生」の元気な取り組み（平成 23 年度の主な取り組み事例） .....	55
4 . 大阪湾再生に関する報道状況 .....	59

## 【大阪湾再生行動計画について】

### 1) 経緯

平成 13 年 12 月：都市再生プロジェクトに「海の再生」を位置付け（都市再生プロジェクト（三次決定））

平成 15 年 6 月 26 日：都市再生本部会合において、「『大阪湾再生推進会議（仮称）』を設立して大阪湾再生に取り組む予定」とされた。

平成 15 年 7 月 28 日：関係省庁及び関係地方公共団体等<sup>注</sup>が「大阪湾再生推進会議」を設置

平成 16 年 3 月 26 日：「大阪湾再生行動計画」を策定

平成 16 年度以降、毎年の実施状況についてフォローアップを実施

平成 19 年度：行動計画策定後 3 か年の取組状況、目標の達成状況について「中間評価」を実施

平成 20 年度：中間評価結果を基に、「大阪湾再生行動計画（第 1 回改訂版）」の策定

平成 22 年度：行動計画策定後 6 か年の取組状況、目標の達成状況について「中間評価」を実施

### 2) 具体的な内容

大阪湾の水環境の現状を踏まえて、

- ・大阪湾再生に向けての湾全体の目標の設定
- ・湾奥部を中心とした重点エリア・アピールポイント等の設定
- ・目標達成のための陸域負荷削減、海域における環境改善対策及びモニタリング（監視）の実施

などの関連施策及びその計画的な推進について明らかにしたもの

### 3) 目標

～ 目 標 ～

森・川・海のネットワークを通じて、  
美しく親しみやすい豊かな「魚庭（なにわ）の海」を回復し、  
京阪神都市圏として市民が誇りうる「大阪湾」を創出する



【大阪湾再生のイメージ】

<sup>注</sup> 大阪湾再生推進会議：地域活性化統合本部事務局（旧：内閣官房都市再生本部事務局）、国土交通省、農林水産省、経済産業省、環境省、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、京都市、大阪市、堺市、神戸市、一般財団法人 大阪湾ベイエリア開発推進機構で構成（注：経済産業省は平成 17 年 3 月、堺市は平成 18 年 3 月から参画）

#### 4) 具体的な目標及び指標

大阪湾の目標の達成状況を判断するため、大阪湾全体に共通する具体的な目標及び指標として、「多様な生物の生息・生育」と「人と海との関わり」の2つの観点から、それぞれに望ましい「質の改善」及び「場の整備」として以下のとおり設定した。

区分		具体的な目標	指標
多様な生物の生息・生育	質の改善	年間を通して底生生物が生息できる水質レベルを確保する	底層DO ・5mg/L以上(当面は3mg/L以上)
	場の整備	海域生物の生息に重要な場を再生する	干潟・藻場・浅場等の面積 砂浜・磯浜等の延長
人と海との関わり	質の改善	人々の親水活動に適した水質レベルを確保する	表層COD ・散策、展望：5mg/L以下 ・潮干狩り：3mg/L以下 ・海水浴：2mg/L以下 ・ダイビング：1mg/L以下
	場の整備	人々が快適に海にふれ合える場を再生する	自然的な海岸線延長
		臨海部での人々の憩いの場を確保する	臨海部における海に面した緑地の面積
		ごみのない美しい海岸線・海域を確保する	浮遊ごみ、漂着ごみ、海底ごみ

また、平成21年度からは、大阪湾再生による効果の把握に適したわかりやすい指標として、以下の7項目のアウトカム指標を設定し、評価の試行を行うこととした。

<p>&lt;多様な生物の生息・生育/生物に関する指標&gt;</p> <p>底生生物の生息状況</p> <p>海岸生物等の生息状況</p> <p>&lt;多様な生物の生息・生育/水質に関する指標&gt;</p> <p>透明度</p> <p>赤潮の状況</p> <p>&lt;人と海との関わり&gt;</p> <p>環境教育・学習の参加者数</p> <p>大阪湾に対するイメージ</p> <p>クリーンアップキャンペーンへの参加者数</p>
--

底生生物とは、ゴカイ、ナマコ、エビ、貝などの海底を棲み処とする生き物のことをいう。

#### 5) 計画期間

平成16年度から10年間

## 6) 平成 23 年度の主な取組状況

### 目標の達成状況

#### 質の改善

- ・底層 D O は、年による変動はみられるものの、A 類型海域では全体的に若干の上昇傾向が窺える。
- ・表層 C O D は、年による変動がみられるものの、行動計画期間内は全体的にほぼ横ばいに推移している。

#### 場の整備

- ・藻場及び自然的な海岸線の整備が進捗
- ・ごみ回収活動を官民連携で実施

### 目標達成のための各種施策の実施状況

#### 陸域負荷削減施策

- ・水質総量削減：第 7 次総量削減基本方針の策定 [ 環境省 ]、第 7 次総量削減計画の策定等 [ 関係府県 ]
- ・効率的・総合的な負荷削減：効率的・総合的な負荷削減のための計画策定、改定等 [ 滋賀県、京都府、近畿地方整備局、京都市 ]、発生負荷量等算定調査の実施 [ 環境省 ]
- ・下水道事業：2 処理場で高度処理施設の一部供用開始 [ 大阪府、神戸市 ]、下水処理水放流先の水草対策の試験施工 [ 滋賀県 ]
- ・浄化槽整備事業：浄化槽整備の推進 [ 環境省、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、兵庫県、京都市、神戸市 ]
- ・河川浄化：支川毎の水質に応じた取り組みの実施等、浄化施設の維持管理 [ 奈良県 ]、流入河川対策、浄化浚渫、覆土工 [ 滋賀県 ]、導水事業 [ 堺市 ]、河口干潟整備 [ 大阪府 ] を実施
- ・森林整備：企業、市民と連携した森林ボランティア活動の支援 [ 近畿中国森林管理局、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、兵庫県 ]、公共工事での間伐材等の木材利用の推進 [ 奈良県 ]
- ・関連事業：雨水浸透側溝の整備完了 [ 京都市 ]、水辺の遊歩道の整備 [ 大阪市 ]
- ・河川清掃活動：市民・企業・行政等が連携した河川清掃活動の実施、支援 [ 各機関 ]

#### 海域における環境改善対策

- ・水質の改善：浚渫土砂の有効活用による、大阪湾内の窪地修復へ向けた試験施工の実施 [ 近畿地方整備局、大阪府 ]
- ・多様な生物の生息・生育：
  - 藻場の整備：泉佐野市地先で完成予定 ( 0.6ha ) [ 大阪府 ]、モニタリング調査実施 [ 兵庫県 ]
  - 砂浜の整備：堺 2 区で整備中 ( 約 0.5ha ) [ 堺市 ]
  - 護岸等への環境改善機能の付加：環境創造型護岸の経過観察 [ 神戸市 ]、生物共生型護岸 ( 堺 2 区 ) の順応的管理の実施 [ 神戸港湾空港技術調査事務所 ]

- ・親水性の向上：
  - 親水空間の整備：「港都 神戸グランドデザイン」推進のための協議会設立[神戸市]、人工海浜（堺2区）の整備（約0.5ha）[堺市]、基幹的広域防災拠点緑地の整備 [近畿地方整備局]
  - 親水活動の実施：なぎさ海道ウォーク [一般財団法人 大阪湾ベイエリア開発推進機構]、阪神なぎさ回廊ウォーク[兵庫県]の実施
- ・浮遊・漂着・海底ごみの削減：
  - 大阪湾クリーン作戦、リフレッシュ瀬戸内、海洋環境整備船による浮遊ごみ回収など [各機関]、海洋レーダで得られた流況データを利用した浮遊ごみ等の挙動解析等 [神戸港湾空港技術調査事務所]

#### 大阪湾再生のためのモニタリング

- ・環境の監視：
  - 効率的・効果的なモニタリング：大阪湾及び河川495点で大阪湾再生水質一斉調査（第8回）を実施 [大阪湾再生推進会議]
  - モニタリングの充実：広域総合水質調査、瀬戸内海総合水質調査、大阪湾環境保全調査、公共用水域水質調査等の実施 [各機関]
  - モニタリング結果の一般への提供：せとうちネットの情報提供内容更新等 [環境省]
- ・環境改善施策の効果把握等：生物共生型護岸でのモニタリング実施 [神戸港湾空港技術調査事務所]、市内河川魚類生息状況調査の実施 [大阪市]
- ・市民参加によるモニタリング：大阪湾生き物一斉調査（第4回）の実施 [神戸港湾空港技術調査事務所]
- ・大阪湾の汚濁機構解明：「流動・水質シミュレーションモデル」の高度化 [神戸港湾空港技術調査事務所]
- ・情報の共有化及び発信：大阪湾環境データベースの情報提供内容の更新 [神戸港湾空港技術調査事務所]

#### アピールポイントにおける集中的・先駆的な取り組み

- ・尼崎臨海部：下水処理場の高度処理化、尼崎臨海地域の緑化、尼崎運河の親水性向上（遊歩道整備、植栽等）
- ・堺浜周辺：下水再生水送水事業、大和川浚渫土砂を活用した窪地埋め戻しの検討、人工干潟の整備、基幹的広域防災拠点緑地の整備、生物共生型護岸の順応的管理、人工海浜の整備

## その他検討結果

### 陸域負荷の削減

- ・陸域負荷削減効果の評価とアピール：下水道整備等による汚濁負荷削減、下水処理水の有効活用、森林整備等による環境改善効果等の検討・PR

### 学識者、市民・NPO、産業界等との連携の強化

- ・表彰制度の継続・発展：第3回「魚庭の海」賞の募集・選考を実施
- ・学識者との連携：学識者を交えた勉強会を開催

### 大阪湾再生による効果の把握と見直し

- ・行動計画の方向性検討：行動計画終了を見据えた方向性を検討

### 広報の強化

- ・企画展の開催：大阪湾再生についてPRするための大阪湾再生の企画展（湾展）を開催（開催箇所数増）

### 効果的・効率的な施策の検討

- ・市民参加による流入負荷削減等の検討：大和川流域における生活排水対策社会実験の他流域への展開の検討

### 実験的な取り組み（社会実験・実証実験及び市民などと協働の取り組み）

- ・「堺海上保安署こども海洋環境教室」、「全国アマモサミット2011」など、24件の市民参画による取り組みを実施

### 大阪湾再生に関する報道状況

- ・「大阪湾 生き物いっぱい 高石・高師浜など一斉調査」（平成23年6月5日、産経新聞）など、大阪湾再生に関する報道は、計21件（平成23年3月～平成24年2月）であった。

## 1. 目標の達成状況

平成23年度末時点における「大阪湾再生行動計画」の具体的な目標の達成状況は次のとおりです。

質の改善については、底層DOは、年による変動はみられるものの、A類型海域では全体的に若干の上昇傾向が窺えます。また、表層CODについては、年による変動がみられるものの、行動計画期間内は全体的にほぼ横ばいに推移している状況です。

場の整備については、概ね着実に進捗しており、新たに0.6haの藻場、0.35kmの自然的な海岸線が整備完了するなど、一定の成果が得られました。

また、ごみのない美しい海岸線を目指し、陸域（河川ごみ）、海域（浮遊・漂着・海底ごみ）ともに、行政、市民連携のもと、ごみ回収活動を実施しました。

### (1) 質の改善

年間を通して底生生物が生息できる水質レベルを確保する

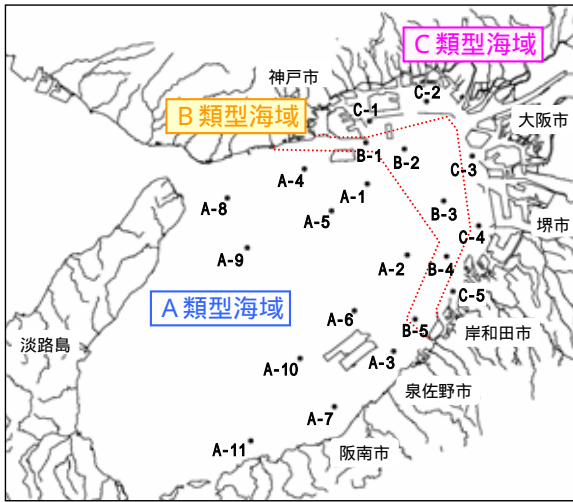
表1 大阪湾再生に係る具体的な目標の達成状況

具体的な目標	目標の達成状況
年間を通して底生生物が生息できる水質レベルを確保する 底層DO ・5mg/L以上（当面は3mg/L以上）	<b>【状況】</b> ・経年変化(図1)を見ると、年による変動はみられるものの、A類型海域では全体的に若干の上昇傾向が窺える。C類型海域ではほぼ横ばいに推移している。
<b>《補完のための効果指標（平成20年度選定）》</b> 底生生物 ・種類数、個体数ともに、夏季の底層DOが低い(3mg/L程度)湾奥部に近いB・C類型海域で少ない傾向がみられる。湾口部に近いA類型海域では行動計画前に比べて種類数が増加する傾向がみられる。(図2)。  注) 大阪府域、兵庫県域(神戸市沖)では調査方法、調査時期等が異なるため、種類数・個体数の単純な比較はできない。	

底生生物とは、ゴカイ、ナマコ、エビ、貝などの海底を棲み処とする生き物のことをいう。

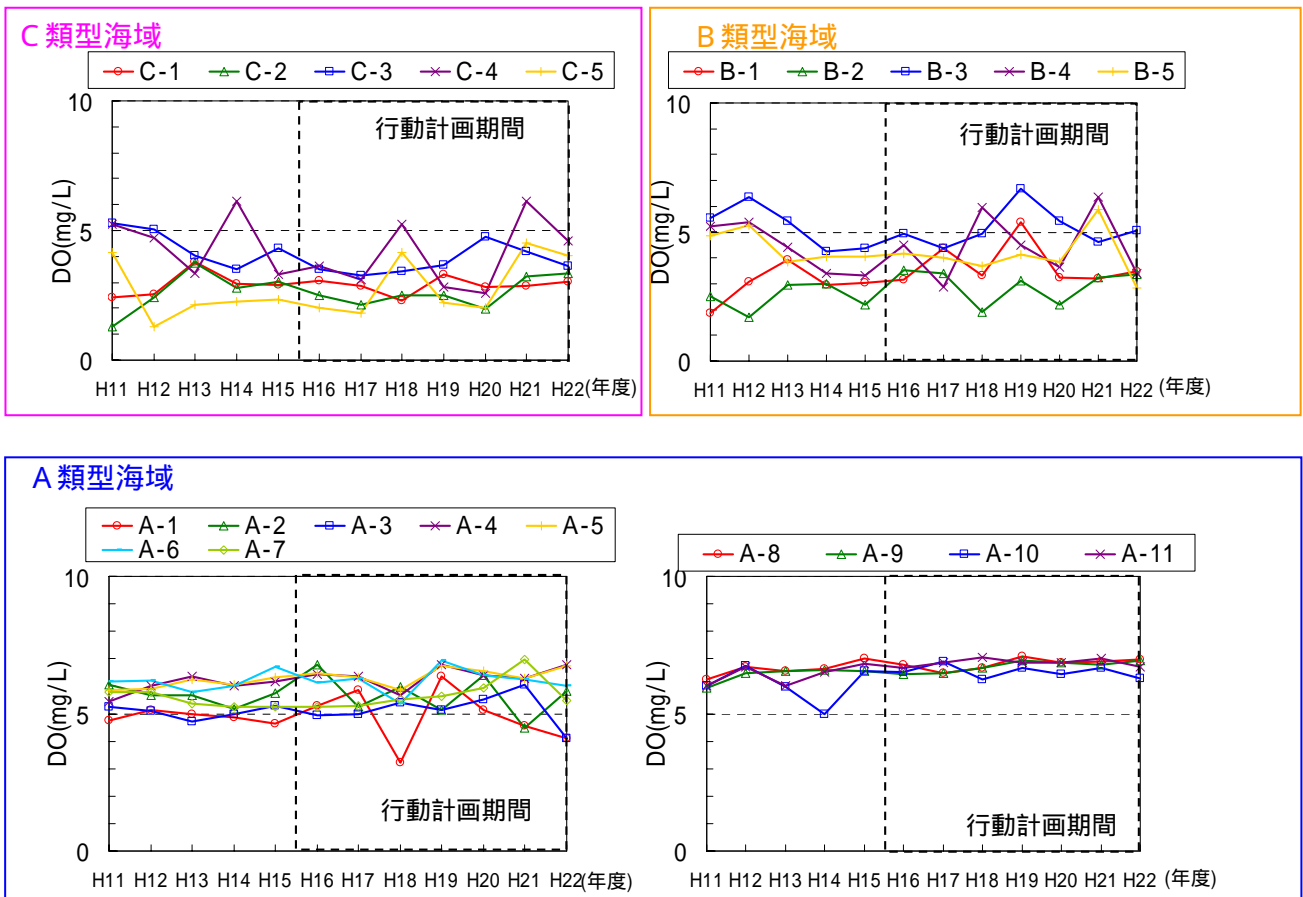


【経年変化図（底層DO）】



指標 「底層DO（溶存酸素量）」
5mg/L以上（当面は3mg/L以上）

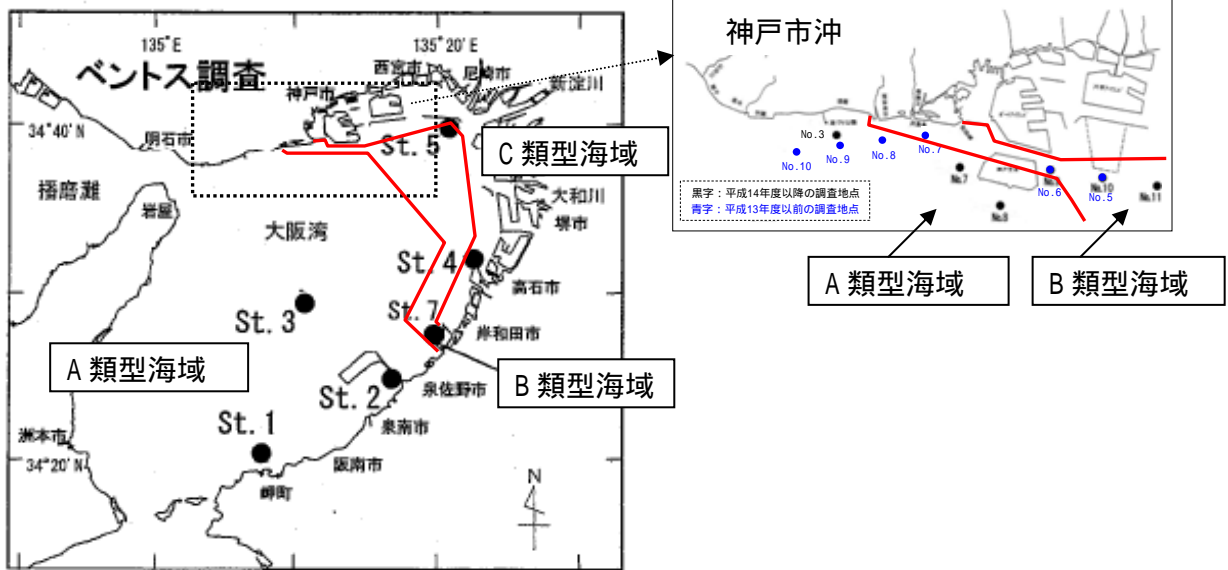
海域別、夏季（6～8月平均）底層DO



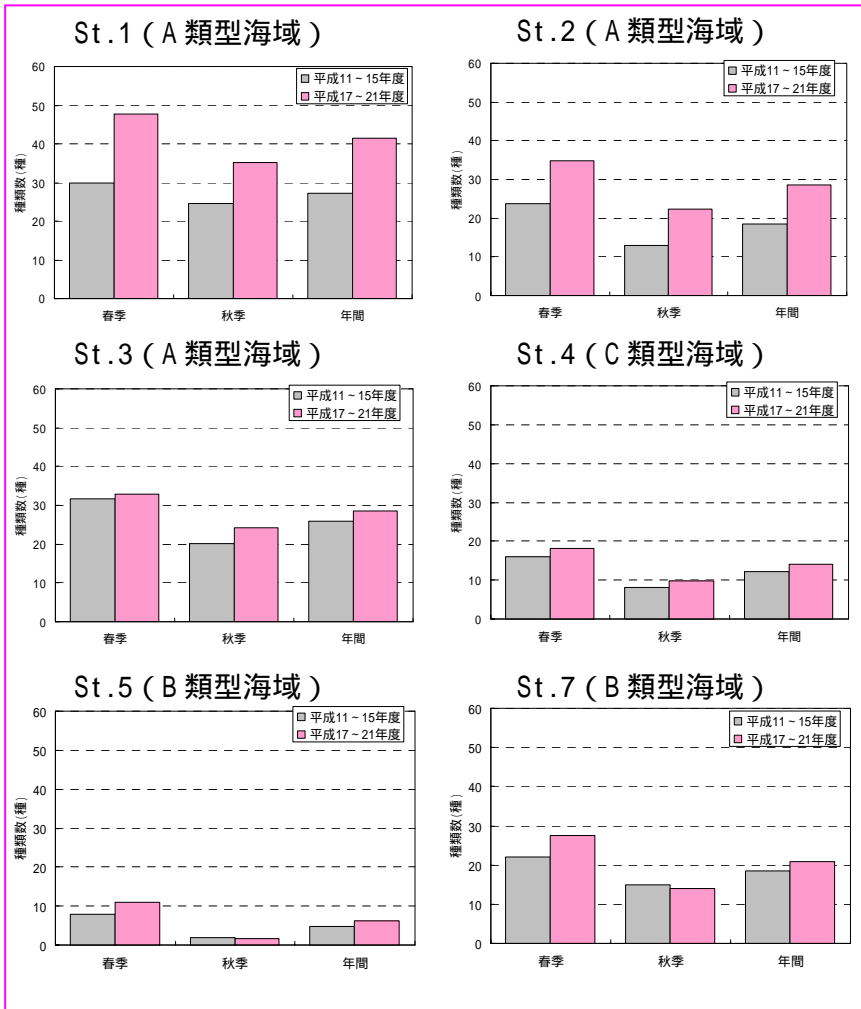
資料）公共用水域水質測定結果（大阪府分：大阪府域河川等水質調査結果、公共用水域水質等データベース（共に大阪府ホームページ）、兵庫県分：環境数値データベース（（独）国立環境研究所ホームページ）、兵庫県提示資料）より作成

図 1 底層DOの経年変化（夏季（6～8月）の平均）

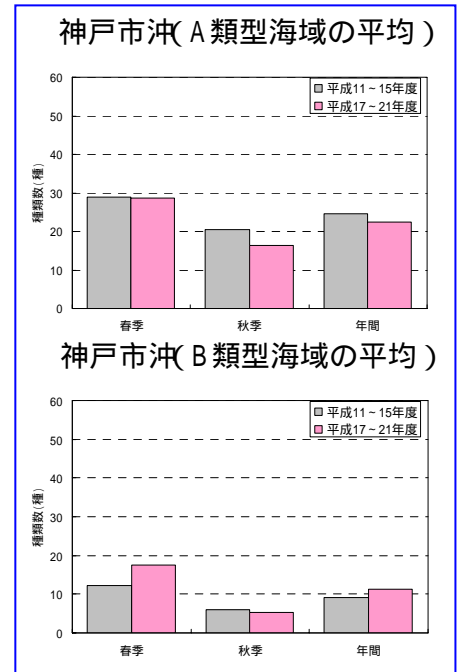
【経月変化図（底生生物・種類数）】



(大阪府域)



(兵庫県域)



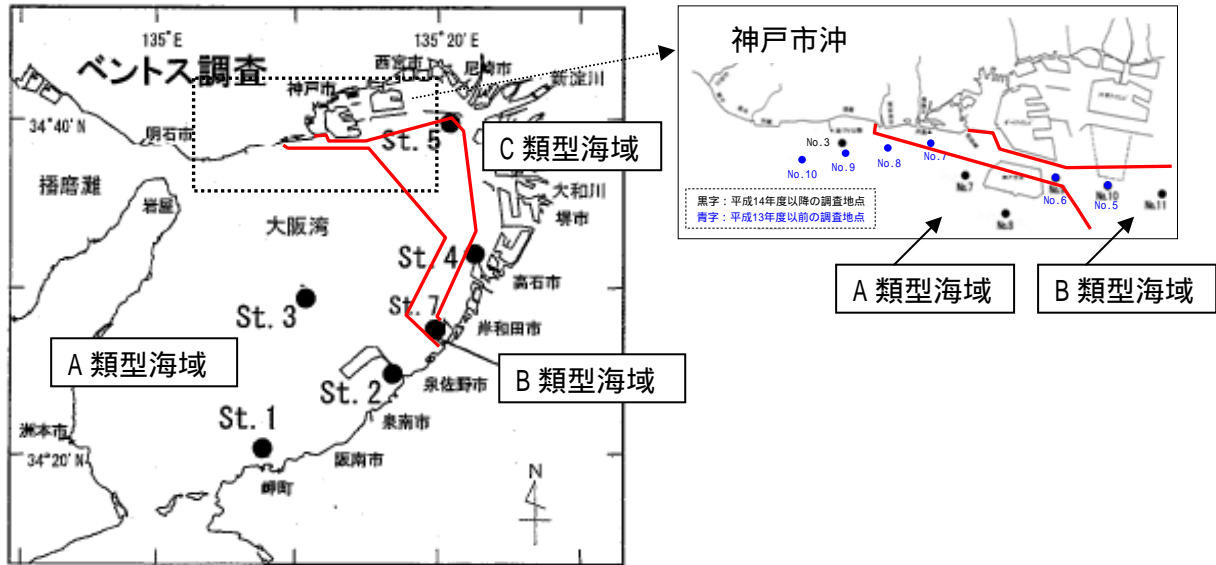
底生生物とは、ゴカイ、ナマコ、エビ、貝などの海底を棲み処とする生き物のことをいう。

出典) 漁場環境調査 生物モニタリング調査 (大阪府水産技術センター)  
環境水質 海域の水生生物調査 (神戸市環境局)

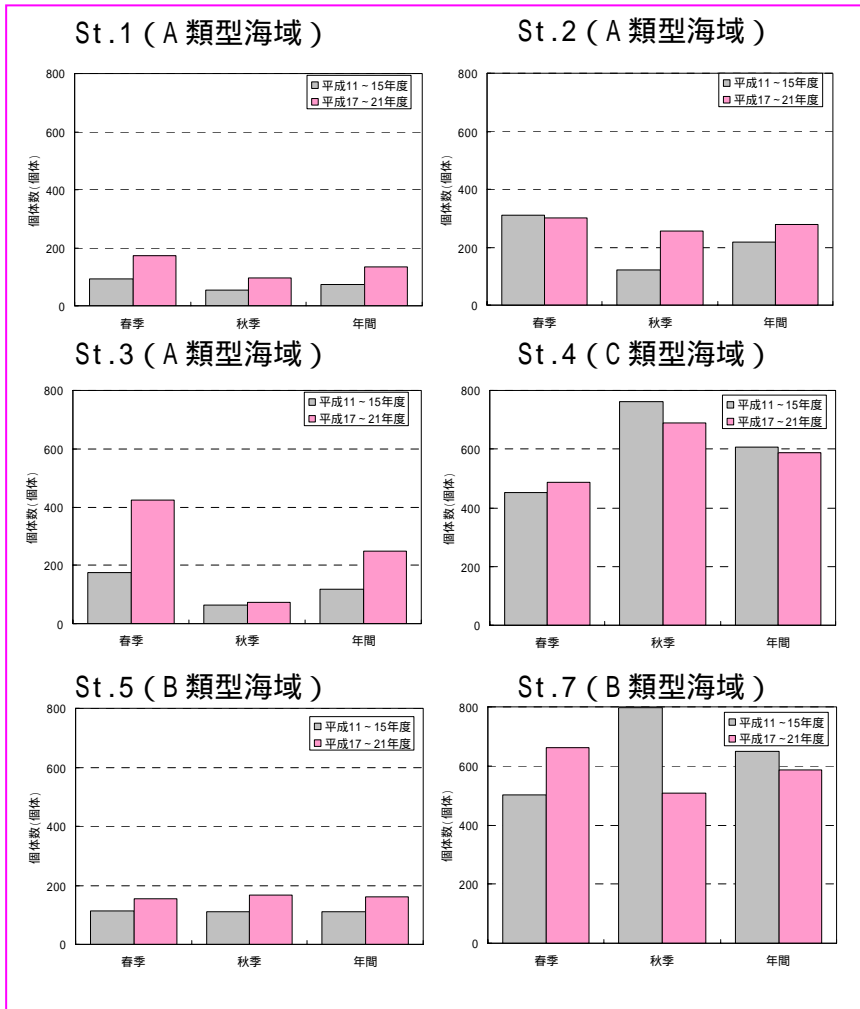
注) 神戸市沖: 約 0.1~0.12m<sup>2</sup> (H21 は約 0.15m<sup>2</sup>) 当たりの種類数、大阪府域: 0.1m<sup>2</sup> 当たりの種類数

図 2(1) 底生生物 の経月変化 (種類数)

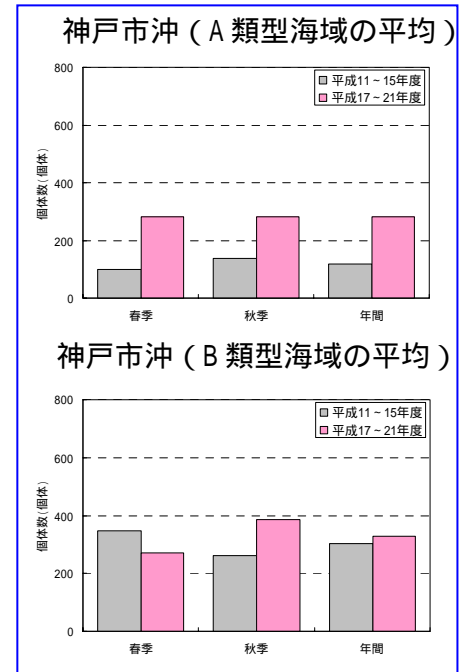
【経月変化図（底生生物・個体数）】



(大阪府域)



(兵庫県域)



底生生物とは、ゴカイ、ナマコ、エビ、貝などの海底を棲み処とする生き物のことをいう。

出典) 漁場環境調査 生物モニタリング調査 (大阪府水産技術センター)  
環境水質 海域の水生生物調査 (神戸市環境局)

注) 神戸市沖：約 0.1~0.12m<sup>2</sup> (H21 は約 0.15m<sup>2</sup>) 当たりの個体数、大阪府域：0.1m<sup>2</sup> 当たりの個体数

図 2(2) 底生生物の経月変化(個体数)

底層DO（年間最低値）と底生生物（種類数）の関係について

底層DOの年間最低値は、湾口側のA類型海域で、5mg/L以上となる範囲が計画前に比べて約160km<sup>2</sup>（大阪湾全体面積の約11%）拡大しました。

底生生物の種類数は、底層DO年間最低値が3mg/L以下となっている湾奥の沿岸部付近では依然として少ないものの、湾口部に近いエリアでは、行動計画期間前に比べて増加傾向がみられます。

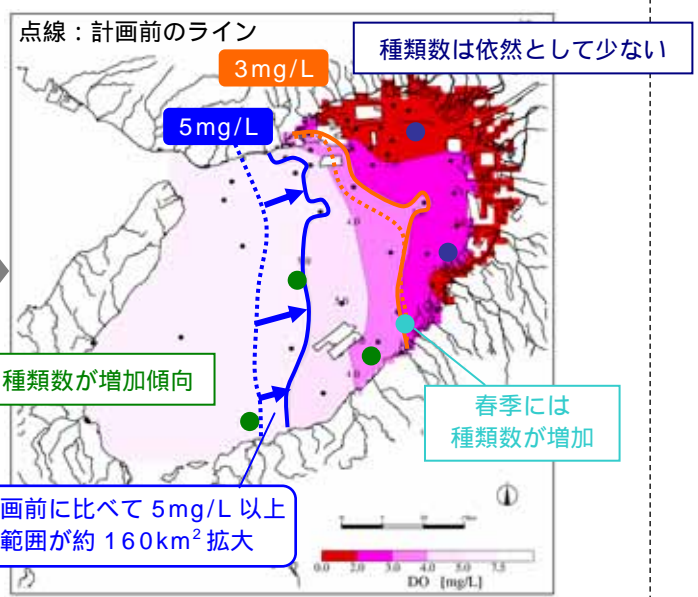
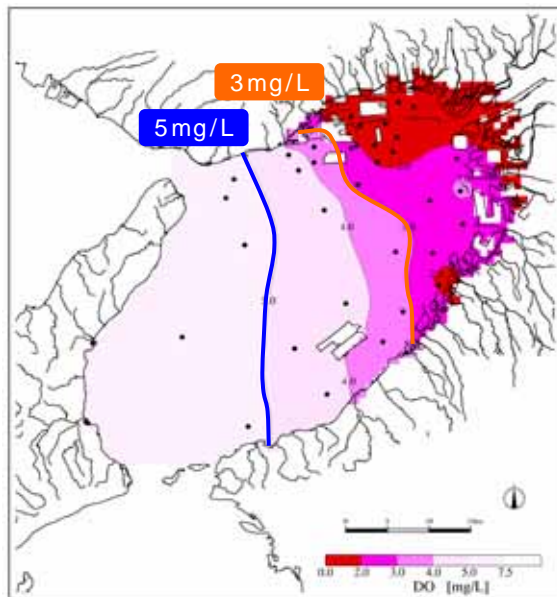
これらのことから、湾奥の沿岸部の底層は依然として生物にとって厳しい環境であるものの、湾口に近い沿岸部を中心として、底層DOが改善し、多様な生物が棲みやすい環境となっていることがうかがえます。

・水平分布

【年間最低値5年平均】

・再生行動計画前（平成11～15年度）

・現在（平成18～22年度）



底層DO（年間最低値）

5mg/L以上の面積：619km <sup>2</sup> 3mg/L以下の面積：367km <sup>2</sup>	⇒	5mg/L以上の面積：781km <sup>2</sup> (+162km <sup>2</sup> ) 3mg/L以下の面積：348km <sup>2</sup> (-19km <sup>2</sup> )
--	---	---

大阪湾の全体面積：1,450km<sup>2</sup>

資料）公共用水域水質測定結果（大阪府分：大阪府域河川等水質調査結果、公共用水域水質等データベース（共に大阪府ホームページ）、兵庫県分：環境数値データベース（独）国立環境研究所ホームページ、兵庫県提示資料）より作成

注）水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものである。

底生生物とは、ゴカイ、ナマコ、エビ、貝などの海底を棲み処とする生き物のことをいう。

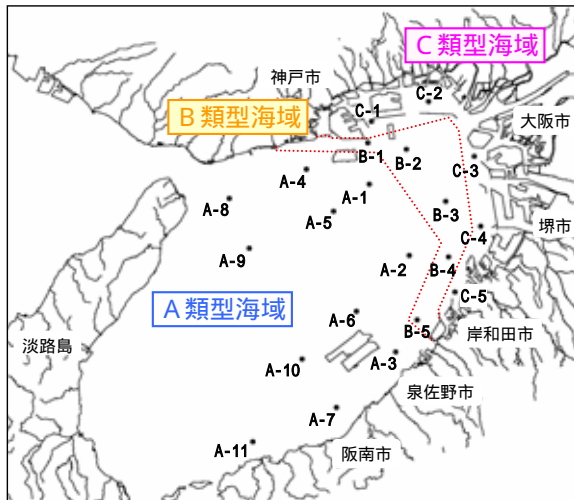
参考図 底層DO（年間最低値）と底生生物（種類数）の変遷

## 人々の親水活動に適した水質レベルを確保する

表 2 大阪湾再生に係る具体的な目標の達成状況

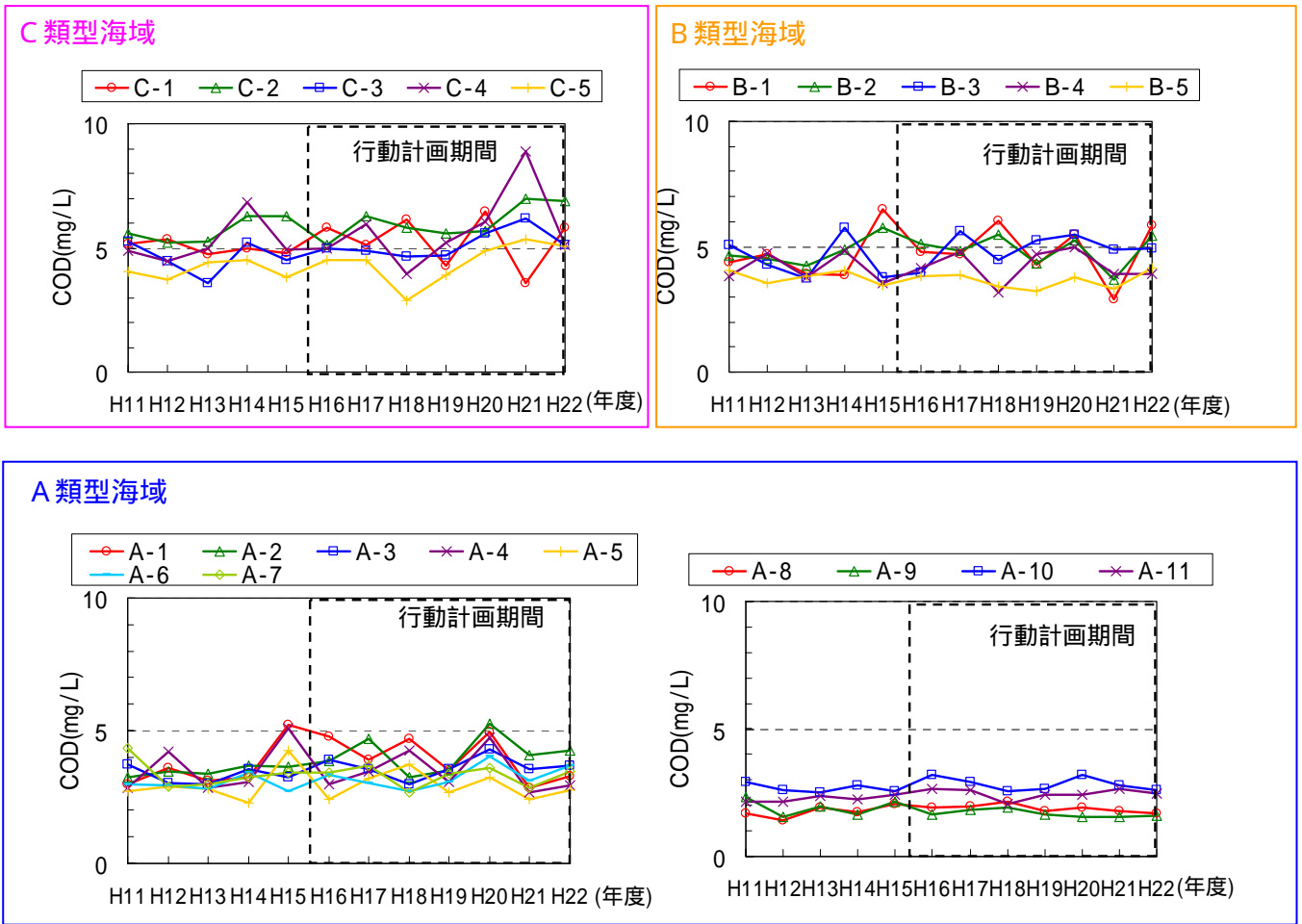
具体的な目標	目標の達成状況
人々の親水活動に適した水質レベルを確保する 表層COD ・散策、展望：5mg/L以下 ・潮干狩り：3mg/L以下 ・海水浴：2mg/L以下 ・ダイビング：1mg/L以下	<b>【状況】</b> ・経年変化(図 3)を見ると、年による変動があるものの、全体的にはほぼ横ばいに推移している。
《補完のための効果指標（平成 20 年度選定）》 透明度 ・経年変化（図 4）を見ると、年による変動が大きくみられるものの、ほぼ横ばいに推移している。  赤潮の発生状況 ・経年変化（図 5）を見ると、年による変動はみられるものの発生頻度の減少までには至っていない。 平成 22 年については、発生件数が昭和 54 年以降最少（14 件）となっている。	

【経年変化図（表層COD）】



指標「表層COD」
散策、展望：5mg/L以下
潮干狩り：3mg/L以下
海水浴：2mg/L以下
ダイビング：1mg/L以下

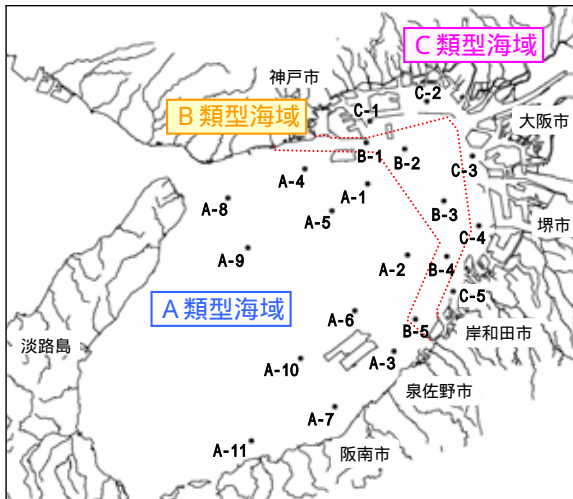
海域別、夏季（6～8月平均）表層COD



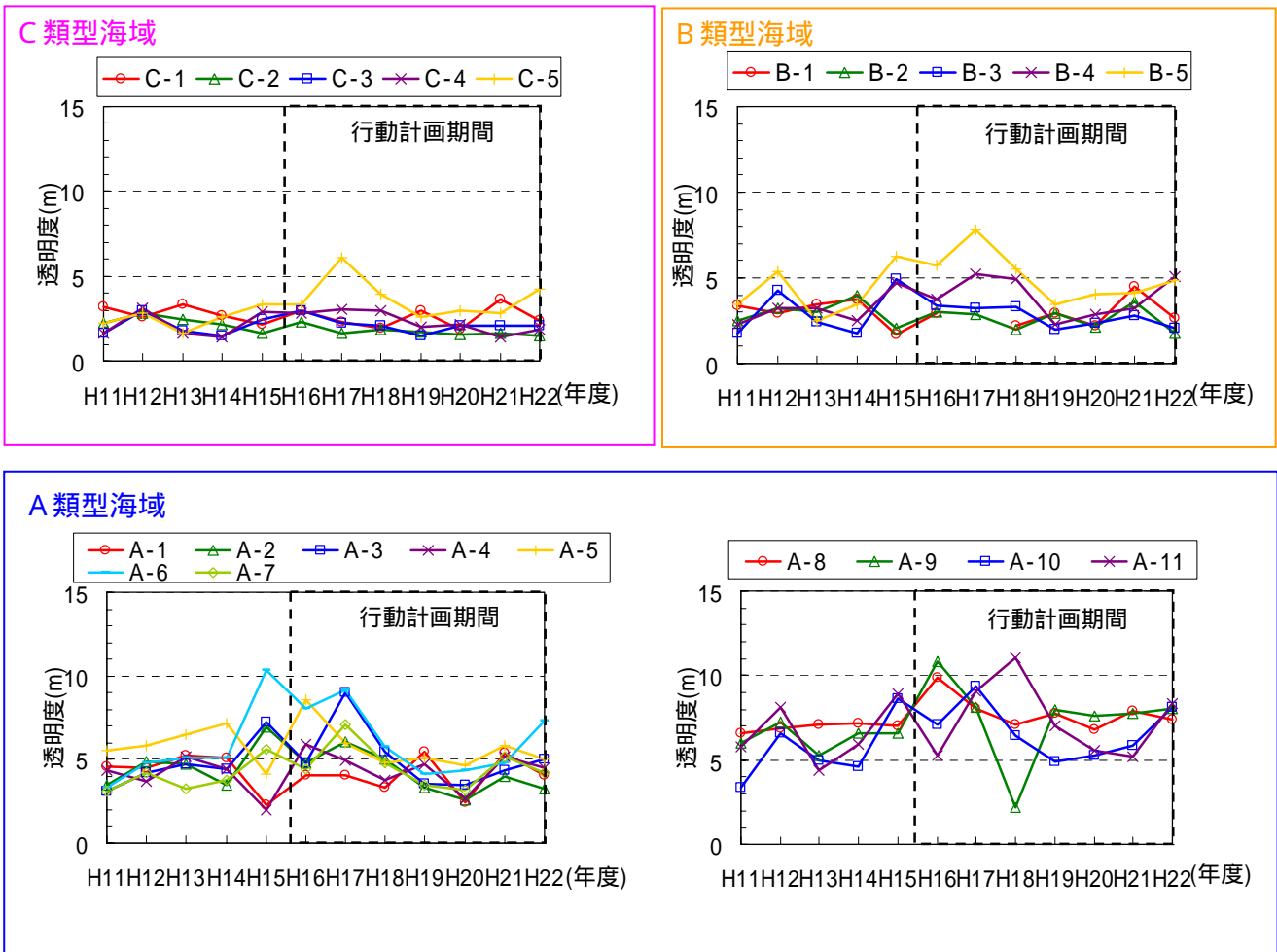
資料) 公共用水域水質測定結果(大阪府分:大阪府域河川等水質調査結果、公共用水域水質等データベース(共に大阪府ホームページ)、兵庫県分:環境数値データベース((独)国立環境研究所ホームページ)、兵庫県提示資料)より作成

図3 表層CODの経年変化(夏季(6～8月)の平均)

【経年変化図（透明度）】



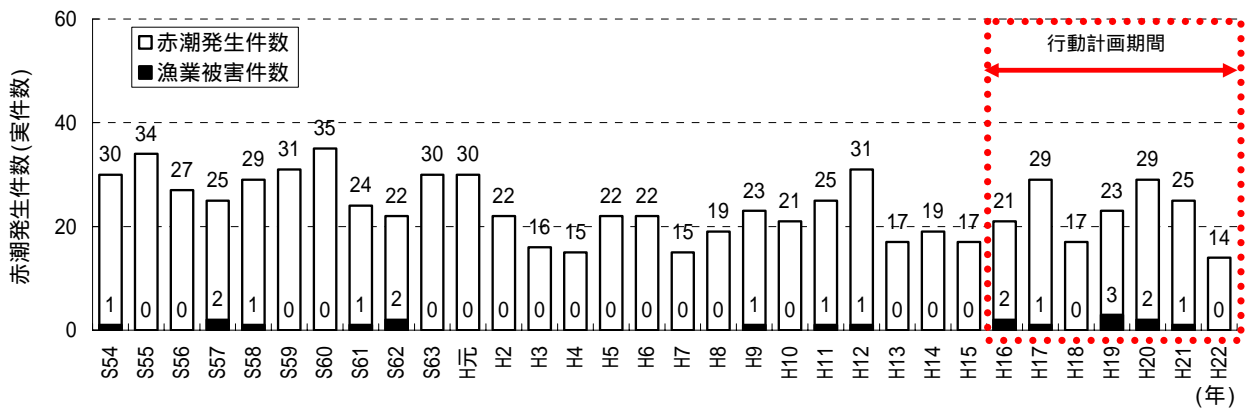
海域別、夏季（6～8月平均）透明度



資料) 公共用水域水質測定結果(大阪府分:大阪府域河川等水質調査結果、公共用水域水質等データベース(共に大阪府ホームページ)、兵庫県分:環境数値データベース((独)国立環境研究所ホームページ) 兵庫県提示資料)より作成

図 4 透明度の経年変化(夏季(6～8月)の平均)

【経年変化図（大阪湾における赤潮の発生状況）】



出典) 瀬戸内海の赤潮 (水産庁瀬戸内海漁業調整事務所)

図 5 赤潮の発生件数及び漁業被害件数



## (2)場の整備

海域生物の生息に重要な場を再生する

干潟については、現在2箇所（13ha）で整備中です。（表 3、図 6）

藻場については、本年度 0.6ha の整備（泉佐野市地先）が完了し、累計で 35.65ha が整備完了しました（計画数量 39.05ha）。（表 4、図 7）

浅場については、計画数量約 2.4ha（神戸空港、御前浜）が平成 17 年度に完了し、活用されています。（表 5、図 8）

砂浜については、本年度より約 0.2 km（堺 2 区）の整備を行っています。（表 6、図 9）

その他、緩傾斜護岸として、昨年度までに 2.0km の整備（新島）が完了しています。

（表 7、図 10）

表 3 干潟の整備状況

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	計	計画
整備完了 (整備中は除く)	0 ha	0 ha	0 ha	0 ha	0 ha	0 ha	0ha	0ha	0 ha	13 ha

### 参考) 整備中

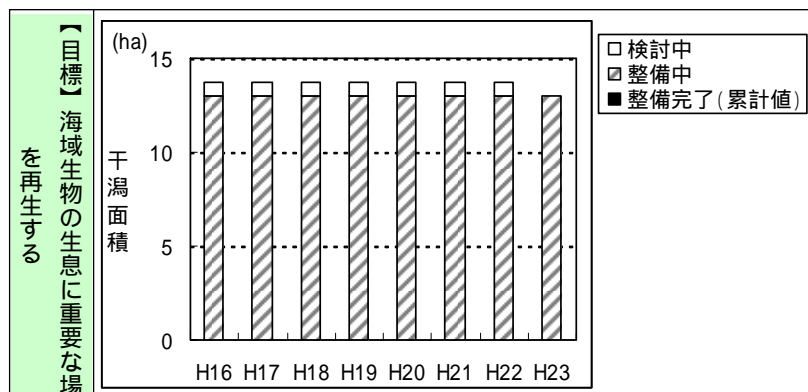
堺泉北港堺 2 区人工干潟（堺 2 区）[大阪府]：H23 完了 0ha、累積完了 0ha、計画 10ha

先端緑地整備等（泉北 6 区）[大阪府]：H23 完了 0ha（一時休止中）、累積完了 0ha、計画 3ha

### 検討中

尼崎臨海地域（尼崎 21 世紀の森（「海辺エリア」として検討中））[兵庫県]：計画未定

凡例) 事業名（実施箇所）[事業主体]：H23 整備完了量、累積完了量、計画量 以下、同様



注) 整備中とは、工事着手していることを示す。

図 6 干潟の整備状況

表 4 藻場の整備状況

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	計	計画
整備完了 (整備中は除く)	7.4 ha	5.8 ha	2.25ha	4 ha	4 ha	7.6 ha	4 ha	0.6 ha	35.65ha	39.05ha (当初計画：13.2ha)

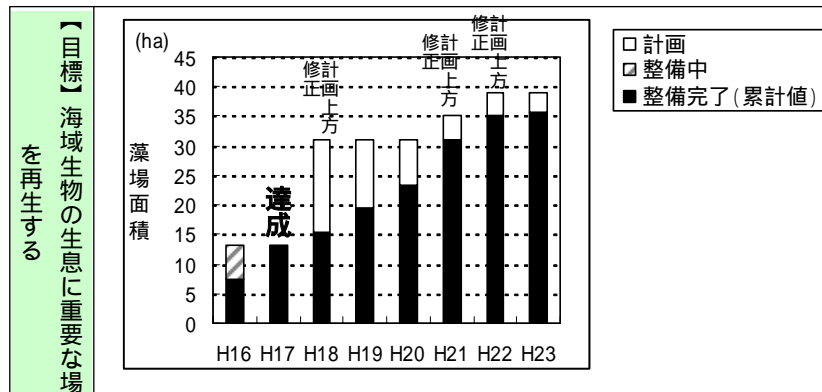
参考) 整備中

増養殖場造成事業(中南部海域)[大阪府]:H23 完了 0.6ha、累積完了 28.6ha、計画 32ha  
 整備完了

漁場整備事業(須磨沖)[兵庫県]: 累積完了 0.6ha、計画 0.6ha

藻場(増殖場)造成(神戸市垂水地先)[兵庫県]: 累積完了 5.85ha、計画 5.85ha

ふれあい漁港漁村整備事業(深日漁港)[大阪府]: 累積完了 0.6ha、計画 0.6ha



注) 整備中とは、工事着手していることを示す。

図 7 藻場の整備状況

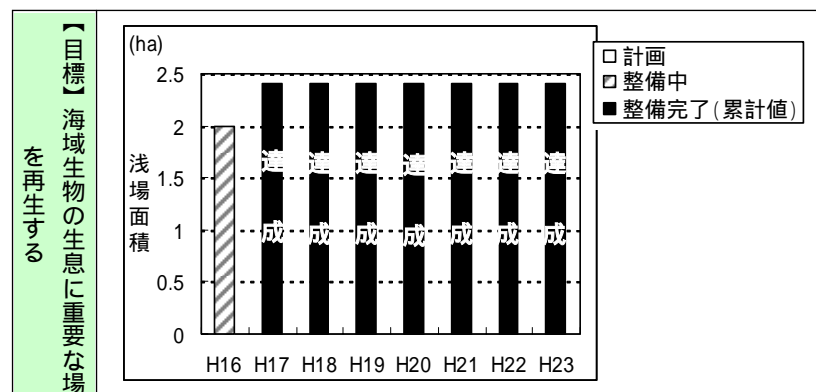
表 5 浅場の整備状況

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	計	計画
整備完了 (整備中は除く)	0 ha	2.4 ha	0 ha	0 ha	0 ha	0 ha	0 ha	0 ha	2.4 ha	2.4 ha (当初計画：2ha)

整備完了

人工海水池等の整備(神戸空港)[神戸市]: 累積完了 2.0ha、計画 2.0ha

御前浜水環境の再生[兵庫県]: 累積完了 0.4ha、計画 0.4ha



注) 整備中とは、工事着手していることを示す。

図 8 浅場の整備状況

表 6 砂浜の整備状況

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	計	計画
整備完了 (整備中は除く)	0 km	0 km	0 km	0 km	0 km	0 km	0 km	0 km	0 km	0.7 km

参考) 整備中

人工海浜整備(堺2区)[堺市]: H23 完了 0km、累積完了 0km、計画 0.2km

事業継続中

干潟、海浜、磯場の整備(舞洲、夢洲)[大阪市]: H23 完了 0km、累積完了 0km、計画 0.5km

事業費ベースの進捗率は約 28%

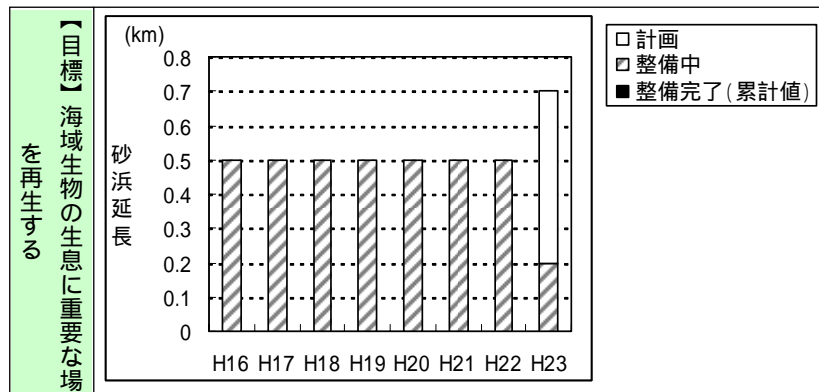


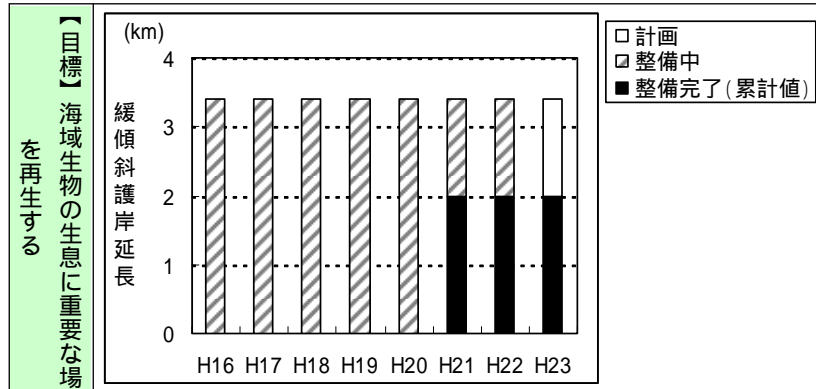
図 9 砂浜の整備状況

表 7 緩傾斜護岸の整備状況

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	計	計画
整備完了 (整備中は除く)	0 km	0 km	0 km	0 km	0 km	2 km	0 km	0 km	2 km	3.4 km

参考) 事業継続中

緩傾斜護岸の整備(新島)[大阪市]: H23完了0km、累積完了2.0km(緩傾斜護岸(北側)1.4km、傾斜護岸(西側)0.65km)、計画3.4km



注) 整備中とは、工事着手していることを示す。

図 10 緩傾斜護岸の整備状況

人々が快適に触れ合える場を再生する

自然的な海岸線については、本年度 0.35km の整備が完了し、累計で 4.04km が整備完了しました（計画数量 5.88km）。（表 8、図 11）

環境教育・学習への参加者数は増加傾向にあり、平成 23 年度には年間約 11,000 人の参加が得られています。（図 12）

表 8 自然的な海岸線の整備状況

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	計	計画
整備完了 (整備中は除く)	0.68 km	0.55 km	0.3 km	0.29 km	0.36 km	0.86 km	0.65 km	0.35 km	4.04 km	5.88 km

参考) 整備中

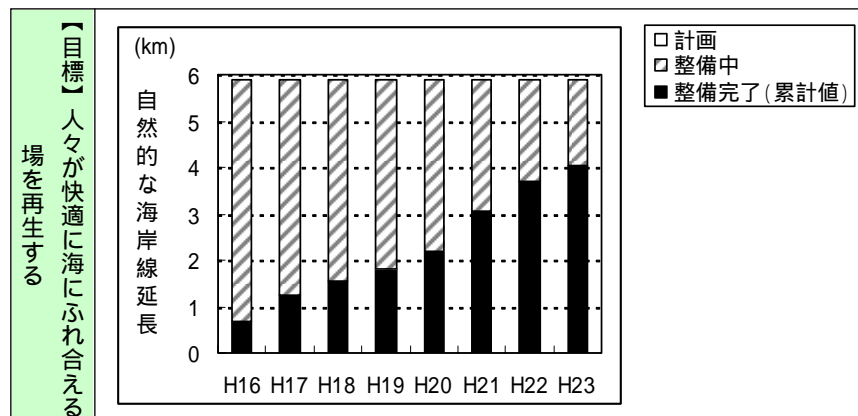
西緑地造成（ポ-トアイランド（第 2 期））[神戸市]：H23 完了 0km、累積完了 0km、計画 1km

海岸環境整備事業（尼崎運河部）[兵庫県]：H23 完了 0.3km、累積完了 2.0km、計画 2.1km

親水護岸整備（堺旧港）[大阪府]：H23 完了 0.05km、累積完了 1.28km、計画 2.02km

整備完了

海岸整備（福島地区）[大阪府]：累積完了 0.76km、計画 0.76km



注) 整備中とは、工事着手していることを示す。

図 11 自然的な海岸線の整備状況

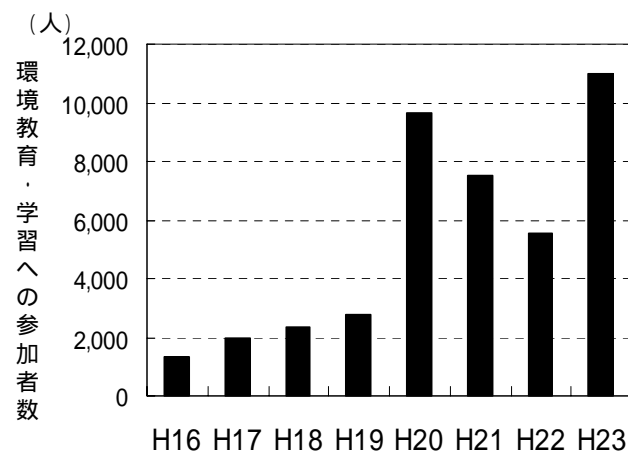


図 12 環境教育・学習への参加者数

臨海部での人々の憩いの場を確保する

臨海部における海に面した緑地については、計画数量約 122.7ha のうち、23.73ha (進捗率：約 19%) が完成し、その他については整備中です。(表 9、図 13)

表 9 臨海部における海に面した緑地の整備状況

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	計	計画
整備完了 (整備中は除く)	5.68 ha	4.55 ha	11.6 ha	0.5 ha	1.4 ha	0 ha	0 ha	0 ha	23.73 ha	122.7 ha (当初計画：96.8ha)

参考) 整備中

尼崎臨海地域の緑化(尼崎 21 世紀の森)[兵庫県]: H23 完了 0ha、累積完了 6.6ha、計画 29ha  
基幹的広域防災拠点緑地(堺 2 区)[近畿地方整備局]:

H23 完了 0ha、累積完了 0ha、計画 27.9ha

共生の森事業(堺 7 - 3 区)[大阪府]: H23 完了 0ha、累積完了 1.03ha、計画 12ha

先端緑地整備等(泉北 6 区)[大阪府]: H23 完了 0ha、累積完了 0ha、計画 7ha

府営公園の整備及び管理(二色の浜公園、りんくう公園、せんなん里海公園)[大阪府]:

H23 完了 0ha、累積完了 6.8ha、計画 34.7ha

ふれあい漁港漁村整備事業(深日漁港、小島漁港)[大阪府]:

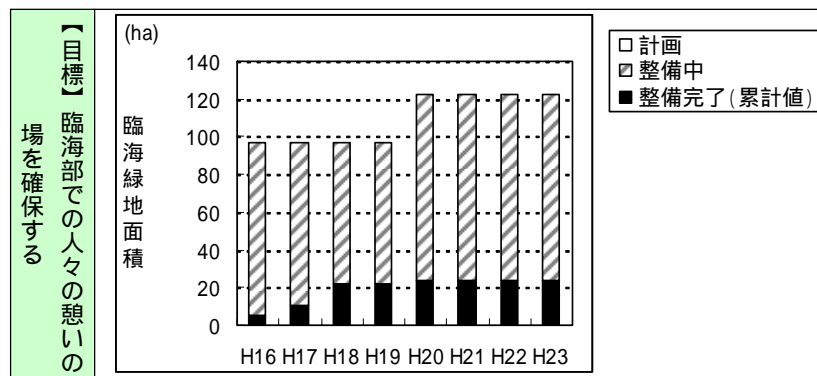
H23 完了 0ha、累積完了 0ha、計画 2.8ha

整備完了

人工海水池等の整備(神戸空港)[神戸市]: 累積完了 5ha、計画 5ha

ポーアイしおさい公園[神戸市]: 累積完了 3.3ha、計 3.3ha

堺 2 区親水緑地整備事業(堺 2 区)[大阪府]: 累積完了 1ha、計 1ha



注) 整備中とは、工事着手していることを示す。

図 13 臨海部における海に面した緑地の整備状況

ごみのない美しい海岸線・海域を確保する

河川や海岸・海上でのごみ回収活動が毎年着実に実施されています。(表 10、図 14、図 15)

河川ごみ及び海岸への漂着ごみについては、地域住民、ボランティア団体等との協働による回収活動を主として実施しています。

また、浮遊ごみ及び海底ごみについては、海洋環境整備船、漁業者との協働による漁船での回収活動を継続的に実施しています。

ごみ回収活動への参加者数は、例年 2 万人～5 万人程度で推移しており、平成 23 年度には約 2.2 万人の参加を得ています。

表 10 ごみ回収状況

【ごみの回収量】 [単位：t]

分類		H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
行政による取り組み	浮遊ごみ	2,159.50	1,068.40	1,765.90	1,290.60	795.6	1,982.10	832.8	1349.07
	漂着ごみ	356.4	135	66.6	34.8	15	52.2	0	81.9
	海底ごみ	448.5	456.6	54	33	19.2	18	396	198
	河川ごみ	10	119.8	205.4	119.2	13	11	0.8	0.15
	分類不能	-	-	-	-	-	-	0.1	0
	計	2,974.4	1,779.8	2,091.9	1,477.6	842.8	2,063.3	1,229.7	1,629.1
市民参加による取り組み	漂着ごみ	892.2	804.1	899.7	629.8	638.9	514.4	426.8	363.3
	海底ごみ	-	-	-	16	-	-	-	0
	河川ごみ	37.2	25.6	39.1	31.4	45.3	58.8	466.9	267.8
	分類不能	-	-	-	-	-	15.5	4.1	7.2
	計	929.4	829.7	938.8	677.2	684.2	588.7	897.8	638.3
合計		3,903.7	2,609.5	3,030.7	2,154.8	1,527.0	2,651.8	2,127.5	2,267.4

浮遊ごみ回収量が平成16年度に非常に多かったのは台風の影響によるものと考えられる。

【ごみ回収活動への市民の参加者数】 [単位：人]

分類		H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
市民参加による取り組み	河川	-	8,637	3,888	5,660	12,760	28,529	16,700	7,494
	海域	-	27,565	25,932	19,868	12,813	21,282	16,529	14,933
	計	-	36,202	29,820	25,528	25,573	49,811	33,229	22,427

平成16年度は参加者数を把握していない。

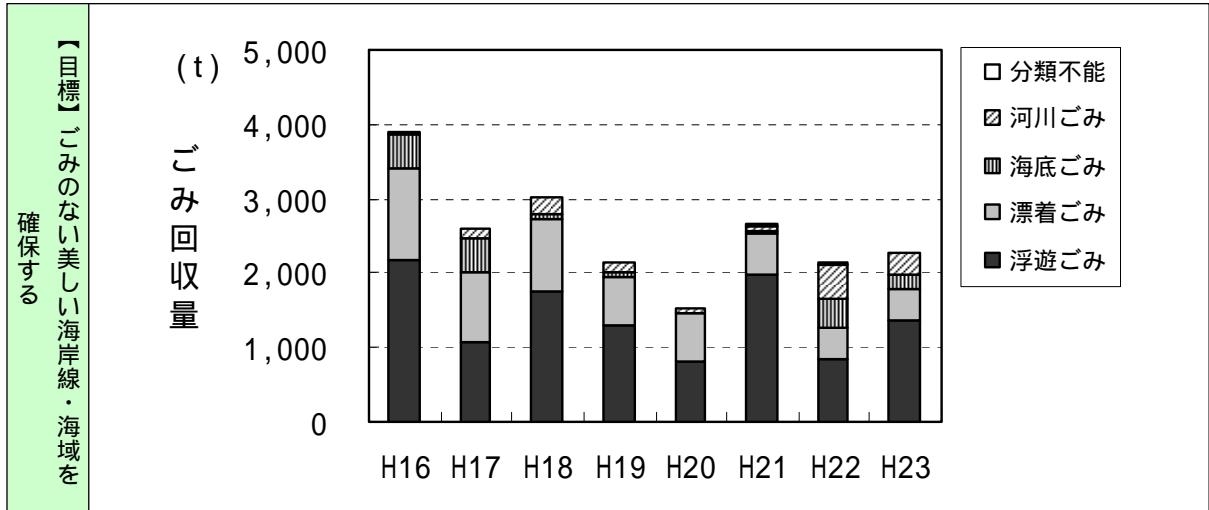


図 14 ごみ回収状況

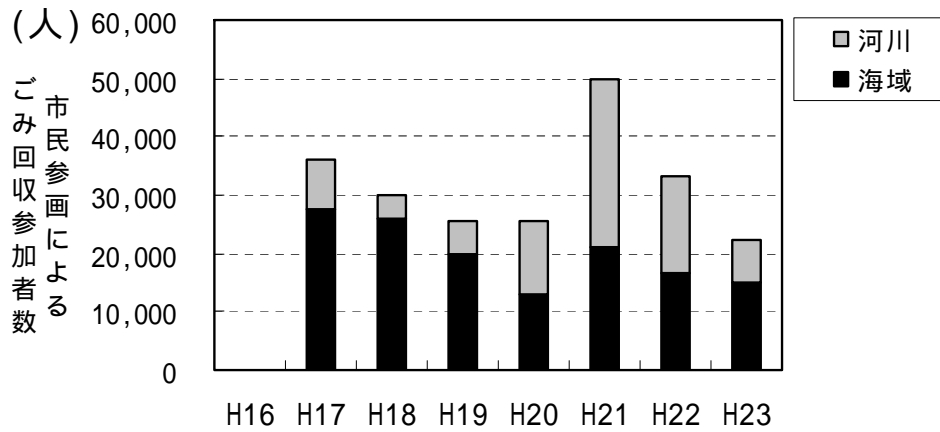


図 15 市民参画によるごみ回収 参加者数



## 2. 行政機関による「大阪湾再生」の目標達成のための積極的な取り組み (平成23年度の主な取り組みの概要)

### 2-1 陸域負荷削減施策の推進

#### 2-1-1 陸域負荷の削減に向けた施策

##### (1) 水質総量削減制度に基づく負荷量削減

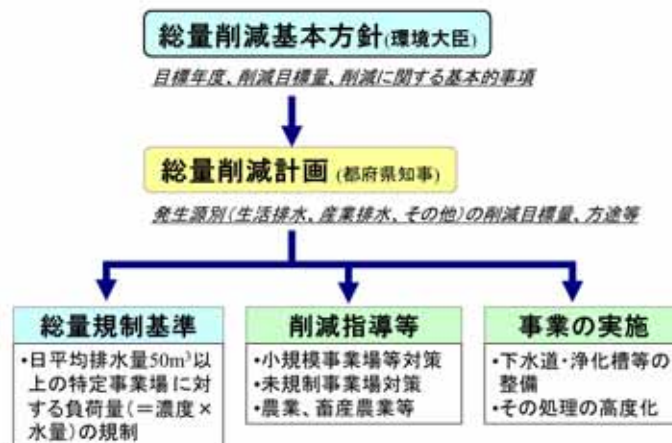
第7次総量削減基本方針の策定、削減計画の策定等<継続>

行動計画においては、計画期間内の大阪湾における早急な水質改善のため、水質総量削減制度に基づき各府県が平成19年度に策定した第6次の総量削減計画の着実な実施及び事業場に対する総量規制基準の遵守の徹底等を図るとともに、平成21年度に第6次総量削減の目標年度を迎えることから、第7次総量削減の検討を行うこととしています。

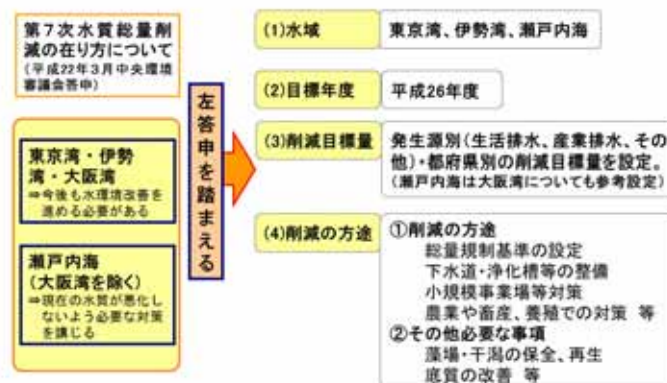
今年度は、第7次総量削減基本方針の策定を行った〔環境省〕ほか、第7次総量削減計画の策定及び総量規制基準の設定を行いました〔関係府県〕

次年度以降も、引き続き、第7次総量削減の推進を行います〔環境省、関係府県〕

### 【水質総量削減制度】



### 【第7次総量削減の概要】



水質総量削減制度及び第7次総量削減の概要

大阪湾に係る発生源別の削減目標量(第7次総量削減基本方針)

(単位:トン/日)

		削減目標量	(参考) 平成21年度における量
化学的 酸素 要求量	生活排水	80	83
	産業排水	26	26
	その他	10	9
	総量	116	118
窒素 含有量	生活排水	59	61
	産業排水	15	15
	その他	29	28
	総量	103	104
りん 含有量	生活排水	3.9	4.4
	産業排水	1.4	1.5
	その他	1.3	1.3
	総量	6.6	7.2

(注)「総量削減基本方針(平成23年6月策定)」より抜粋。

第7次総量削減計画 策定スケジュール(京都府の例)

平成23年12月14日～ 環境省と府の総量削減計画(案)について協議を開始  
 平成24年1月下旬 大臣同意見込  
 平成24年2月下旬 新計画及び新基準に係る公示予定  
 以降、新計画に基づき事業を進捗

(2) 効率的、総合的な負荷削減のための計画策定・事業実施

琵琶湖総合保全整備計画（マザーレイク21計画第2期）改定、第6期湖沼水質保全計画策定、大和川水環境改善計画（仮称）策定、高度処理基本計画見直し完了【一部完了】  
発生負荷量等算定調査の実施＜継続＞

行動計画においては、高度処理、面源汚濁負荷対策等を含めた効率的、総合的な負荷削減のための計画策定及び事業実施を図ることとしています。

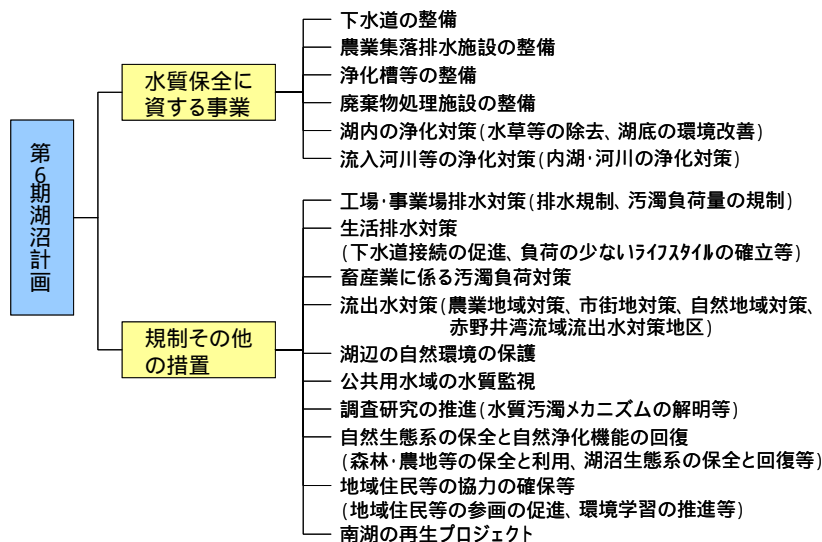
今年度は、琵琶湖総合保全整備計画（マザーレイク21計画第2期）の改定〔滋賀県〕、第6期湖沼水質保全計画の策定〔滋賀県、京都府〕、大和川水環境改善計画（仮称）の策定〔近畿地方整備局河川部〕、高度処理基本計画の見直しを完了〔京都市〕したほか、発生負荷量等算定調査の実施〔環境省〕等、効率的、総合的な負荷削減のための計画策定および事業を実施しました。

次年度以降も、計画の検討を進めるとともに計画に基づき事業を実施します。



マザーレイク21計画第2期目標

琵琶湖に係る湖沼水質保全計画の体系



琵琶湖に係る湖沼水質保全計画の体系

**<現計画>**

**Cプロジェクト計画 2006**

Cプロジェクト計画2006の取り組みによって、  
大和川本川8地点全てにおいて環境基準を達成。

しかし、以下の課題も残っている。

**【課題】**

感覚による水質評価の結果は良くない。

汚れた水にすむ生きものが多い。

安心して水遊び等ができない。

生活排水対策がまだ不十分。

ごみ対策が不十分。



**<次期計画>**

**大和川水環境改善計画（仮称）**

さらなる水質改善を目標に、

発生源対策

汚濁負荷削減対策

河川の本来機能再生対策

調査研究

を実施していく。

大和川水環境改善計画（仮称）について

### (3) 下水道事業

今池水みらいセンター、垂水処理場で高度処理施設を一部供用開始【一部完了】  
 東北部浄化センターで下水処理水放流先の水草対策の試験施工を実施<継続>

行動計画においては、陸域からの汚濁負荷を削減するために、以下のとおり下水道事業を推進することとしています。

大阪湾の集水域内で下水道事業を予定している全地域において事業に着手するものとし、新たに4処理場の供用開始を目指す（なお、2処理場は平成19年度末までに供用開始済み）  
 新たに24箇所の処理場で高度処理化を目指す  
 合流式下水道の改善については合流式下水道緊急改善計画を平成16年度末までに策定し、早期にこれに基づき重点的・効果的に改善事業（ろ過スクリーン設置、貯留施設、消毒施設整備等）を実施する

今年度は、昨年度に引き続き、以下の事業を実施しました。

下水道の普及促進を継続して実施しています。（平成22年度末までに下水処理場4箇所供用済）

下水処理場の高度処理化については、2処理場（今池水みらいセンター〔大阪府〕垂水処理場〔神戸市〕）で一部完了（供用開始）しました。このほか、12処理場で供用済であり（一部供用開始含む）、6処理場で事業実施中です。

下水道普及率（平成22年度末）：91.5%  
 高度処理人口普及率（接続人口）（平成22年度末）：48.9%

出典）関係地方公共団体ヒアリングによる近畿地方整備局調べ

合流式下水道の改善については、合流式下水道緊急改善計画に基づく改善事業を継続して実施しています。

また、東北部浄化センター〔滋賀県〕において、下水処理水放流先の水草対策の試験施工を実施しました。

次年度以降も、引き続き上記の事業を継続する予定です。



出典）大阪府HP

今池水みらいセンター



写真提供）神戸市

垂水処理場



出典）財団法人滋賀県下水道公社HP

東北部浄化センター

## 高度処理化の進捗状況

府県名	市町村名 又は流域名	下水処理場名	高度処理化の状況
滋賀県	甲賀市	信楽浄化センター	供用済
京都府	京都市	石田水環境保全センター	供用済
	宇治市	東宇治浄化センター	事業中
	亀岡市	年谷浄化センター	未着手
大阪府	淀川右岸流域	高槻水みらいセンター	供用済
	寝屋川北部流域	なわて水みらいセンター	供用済
	寝屋川南部流域	竜華水みらいセンター	供用済
	寝屋川南部流域	川俣水みらいセンター	供用済
	大和川下流流域	今池水みらいセンター	供用済
	大和川下流流域	狭山水みらいセンター	供用済
	大阪市	今福下水処理場	未着手
	大阪市	市岡下水処理場	未着手
	大阪市	此花下水処理場	供用済
	豊中市	庄内下水処理場	供用済
	池田市	池田市下水処理場	供用済
	吹田市	南吹田下水処理場	事業中
兵庫県	武庫川下流流域	武庫川下流浄化センター	供用済
	神戸市	垂水処理場	供用済
	尼崎市	東部浄化センター	事業中
	尼崎市	北部浄化センター	事業中
	西宮市	西宮処理場(枝川浄化センター)	事業中
	西宮市	西宮処理場(鳴尾浜浄化センター)	未着手
	西宮市	西宮処理場(甲子園浜浄化センター)	事業中
	南あわじ市	広田浄化センター	供用済

高度処理化の状況	下水処理場数
供用済	14
事業中	6
未着手	4
計	24

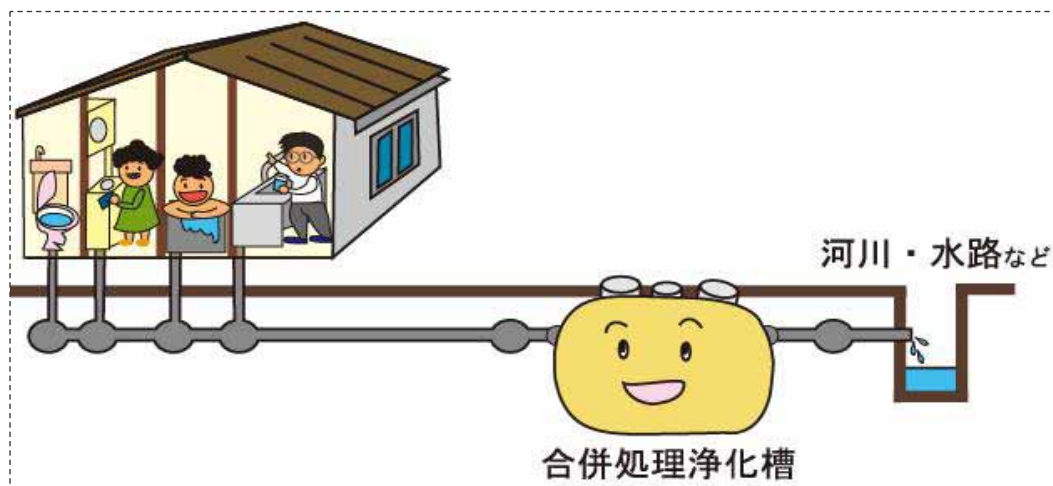
#### (4) 浄化槽整備事業

##### 浄化槽整備の推進<継続>

行動計画においては、浄化槽について、住民意識を高めるほか、市町村が主体となって浄化槽の整備・維持管理を行う事業を積極的に活用し、既存の単独処理浄化槽から、合併処理浄化槽への転換を促進するとともに、窒素やりんの除去性能を有する高度処理型浄化槽の整備の促進を図ることとしています。

今年度も、浄化槽設置に係る費用補助など、浄化槽整備の推進のための取り組みを継続して実施しました。[環境省、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、兵庫県、京都市、神戸市]このうち、神戸市では、浄化槽設置整備事業により、年間40基を目標に設置を促進しています。

次年度以降も、環境省、関係府県市において、浄化槽整備の推進を継続する予定です。



合併浄化槽の仕組み

#### 浄化槽普及状況（平成22年度末）

(単位:千人)

府県名	合併処理浄化槽			
	浄化槽市町村整備 推進事業等分	浄化槽設置 整備事業分	左記以外分	
滋賀県	59	6	18	35
京都府	62	5	32	25
大阪府	212	5	30	176
兵庫県	121	7	76	39
奈良県	129	4	32	93
和歌山県	272	13	155	104

(注) 整備人口は四捨五入を行ったため、合計が合わないことがある。

## (5)河川浄化事業

大和川水系での支川毎の水質に応じた取り組みの実施等<継続>

大和川水系での浄化施設の維持管理の実施<継続>

琵琶湖流域(赤野井湾・西の湖・木浜内湖・平湖・柳平湖)での流入河川対策、浄化  
浚渫や覆土工<継続>

土居川での海水導水事業の導水開始<継続>

近木川での河口干潟整備<継続>

行動計画においては、河川浄化施設による浄化(大和川水系、寝屋川水系、樫井川など)、浄化浚渫による有機汚濁対策(寝屋川水系、石津川、樫井川など)に加え、河口干潟(近木川)などの保全・再生に伴う窒素・りん等の栄養塩類の削減を、当該河川関係住民の意見をふまえた河川整備計画に基づき、積極的に推進することとしています。

今年度は、次の事業を継続実施しました。

<重点地域における負荷削減対策>

・大和川水系：支川毎の水質に応じた取り組みの実施〔奈良県〕

重点対策支川 11 支川を設定し、重点対策支川の1つである菰川において、近傍に位置する佐保川から農業用水の一部を環境用水として導水する社会実験を実施しました。導水後の水質(BOD)は右肩下がりで、日を追うごとに良くなる傾向がみられました。

<河川浄化対策>

・大和川水系：河川浄化施設の適切な維持管理〔奈良県〕

定期的な観測により、施設の稼働状況のチェックを行いました。

・赤野井湾(琵琶湖流域)：流入河川対策〔滋賀県〕

赤野井湾に流入する新守山川の汚濁負荷削減のための測量設計を実施しました。

<浄化浚渫等>

・西の湖(琵琶湖流域)：浄化浚渫〔滋賀県〕

・木浜内湖・平湖・柳平湖(琵琶湖流域)：覆土工〔滋賀県〕

<導水事業>

・土居川：海水導水事業の導水開始〔堺市〕

土居川で時期的に生じている黒濁化や悪臭の低減・解消に向けて、土居川近傍に位置する出島漁港より海水の導水を開始しました。

<河口干潟整備>

・近木川：河口干潟整備〔大阪府〕

次年度以降も、上記事業などを継続する予定です。



浄化浚渫(西の湖)



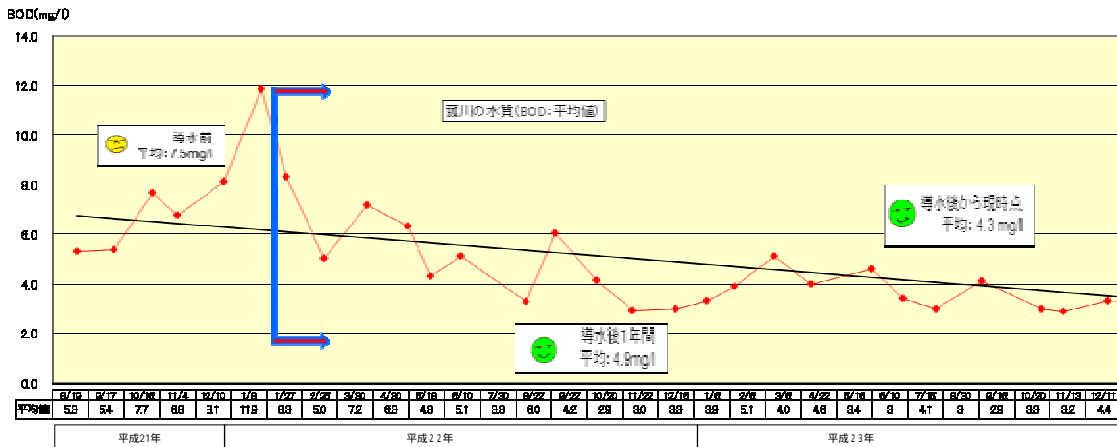
海水導水事業(土居川)



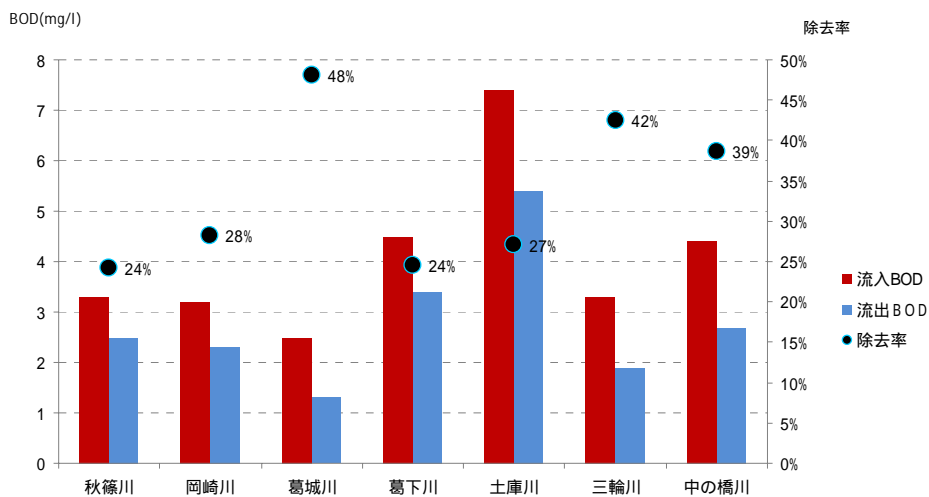
【導水前後の状況の変化】



【導水前後のBOD水質比較 (7地点平均値)】



重点対策支川 菰川における導水社会実験結果



接触酸化方式による河川浄化施設のBOD改善効果 (平成22年度 奈良県)

## (6) 森林整備事業

企業、市民と連携した森林ボランティア活動の支援、並びに公共工事での間伐材等の木材利用の推進<継続>

行動計画においては、「漁民の森づくり」や「里山ボランティア活動の推進」など多様な主体が参加・協力した森林整備の推進に努めるとともに、公共土木工事における間伐材の利用や、水質浄化材としての木炭や竹炭の利用など、森・川・海が連携した森づくりの取り組みや、循環型資源としての木材利用を進めることとしています。

今年度は、昨年度に引き続き、次に示すとおり、市民、企業等と連携した森林整備を推進しました。

- ・箕面国有林の「箕面体験学習の森」がオオクワガタの棲める森となることを目指し、箕面市内の小学校、幼稚園児、ボランティア、地域住民等により、約1年間ドングリから育てたクヌギ、コナラの苗木を山に返す植樹祭等を実施〔近畿中国森林管理局〕
- ・伊崎国有林において、森林ボランティアによる森林植生回復対策及びカワウ対策を実施〔近畿中国森林管理局〕
- ・普及啓発活動や森林づくり交流会の開催、地域普及啓発活動を実施〔滋賀県〕
- ・京都モデルフォレスト：府民参画による森林整備等を促進、現在33企業が参加〔京都府〕
- ・森林ボランティア団体を支援〔大阪府〕
- ・県民参加の森林づくりとして、NPOやボランティア団体等の協力を得ながら里山林を整備〔奈良県〕
- ・「森林ボランティア育成1万人作戦」を展開（平成23年度予定：10,500人）〔兵庫県〕

また、公共工事での間伐材等の木材利用の推進のため、「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に基づき、県の基本方針を策定しました。〔奈良県〕

次年度以降も、上記事業などを継続する予定です。



平成23年11月16日、12月11日、大阪府箕面市にある箕面国有林の「箕面体験学習の森」において、植樹祭を実施しました。

12月11日の植樹祭では、総勢77名が参加し、クヌギ・コナラ・ヤマザクラなど6種類の苗木を225本植樹しました。また、植樹を記念して、検討委員会委員と参加の子どもたちによる記念標柱の除幕式を行いました。

写真提供：近畿中国森林管理局

オオクワガタの棲める森づくり



写真提供：滋賀県

### 森林づくり交流会



写真提供：京都府

### 京都モデルフォレスト



写真提供：奈良県

### NPOによる里山林の整備（実施後の状況）

(7)関連事業

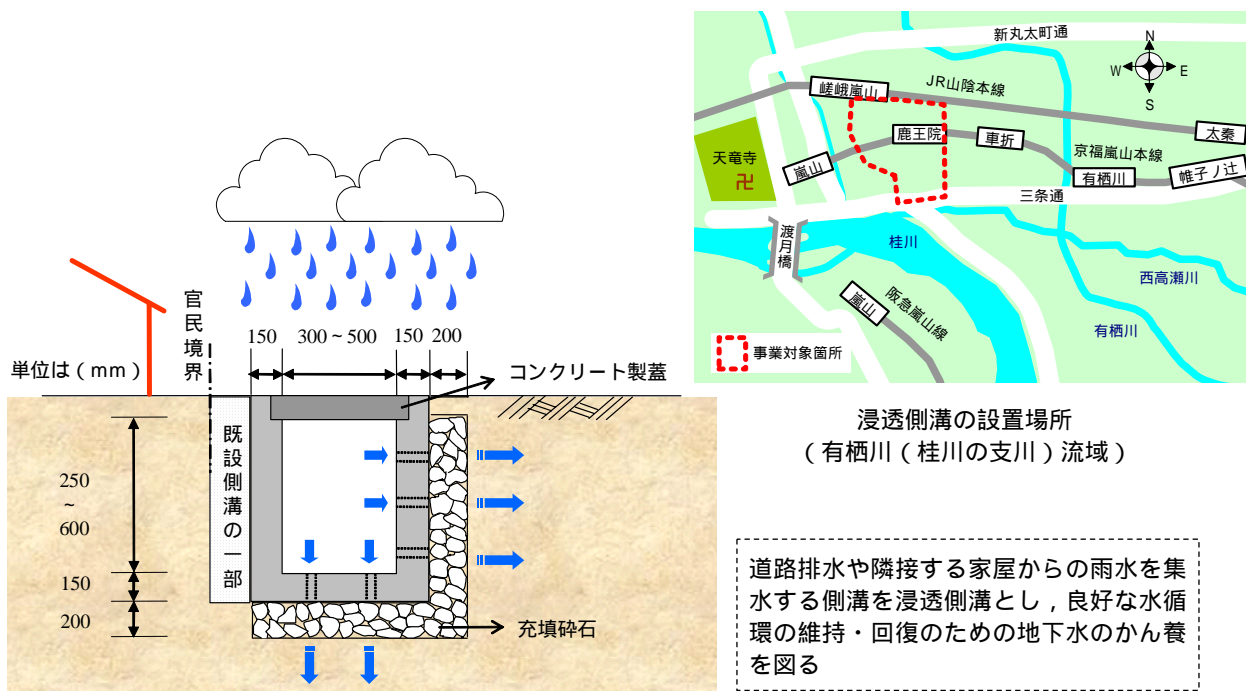
雨水浸透側溝の整備完了【完了】

水都再生（道頓堀川水辺整備事業）における遊歩道の整備<継続>

行動計画においては、面源から発生する汚濁負荷の削減を行うため、流出する負荷を浄化するとともに、貯留浸透施設の設置等により雨水の流出を抑制し、汚濁負荷の削減を図ることとしています。また、都市の再開発等と連携一体化した汚濁負荷流出削減施設の整備等、大阪湾にやさしい都市構造の構築を進めることとしています。

今年度は、有栖川流域嵯峨地区（京都市）において雨水浸透側溝の整備が完了〔京都市〕したほか、道頓堀川において親水性の高い遊歩道の整備を行い、平成24年春に概成します〔大阪市〕

次年度以降も、面源負荷削減対策、下水処理水の活用、水辺空間の整備等を継続する予定です。



雨水浸透側溝の整備状況



写真提供：大阪市

水都再生（道頓堀川水辺整備事業）

## 2-1-2 陸域負荷削減以外の施策

### (1)河川清掃活動

市民・企業・行政等が連携した河川清掃活動の実施<継続>

河川清掃活動等への支援<継続>

行動計画においては、今後も市民活動等との連携による清掃活動を推進するとともに、ごみの種類の分類、海域でのごみ漂着の実態を広く一般に提示することなどを通じて発生源におけるごみ削減の基盤づくりを支援することとしています。

今年度は、昨年度に引き続き、市民・企業・行政等が連携した河川清掃活動を実施するとともに、河川清掃活動等への支援を行いました〔近畿地方整備局河川部、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、兵庫県、大阪市、神戸市、堺市など〕

次年度以降も、関係機関等と連携し、上記の取り組みを継続する予定です。



写真提供：神戸市

神戸市市民の水辺連絡会一斉清掃活動



写真提供：奈良県

清掃活動（佐保川）

## 2-2 海域における環境改善対策の推進

### 2-2-1 水質の改善

#### (1)大阪湾内の窪地修復へ向けた検討

##### 浚渫土砂の有効活用による、大阪湾内の窪地修復へ向けた試験施工の実施< 継続 >

行動計画においては、水質の改善は、多様な生物の生息・生育と密接な関係があるとともに、人々の快適性にとっても重要な要素であることを踏まえ、底泥から溶出する栄養塩類の削減に向けて、覆砂及び薄層浚渫の技術開発を行うことや底泥の有効活用についての検討を行うこととしています。

今年度は、窪地修復の検討を継続して実施するとともに、阪南2区沖窪地に大阪港主航路浚渫土砂を投入する試験施工を実施しました〔近畿地方整備局港湾空港部、大阪府〕

次年度以降も、検討の継続を予定しています〔近畿地方整備局港湾空港部〕

#### 事業目的

大阪湾においては、過去に行われた土砂採取による大規模な窪地が湾内に多数点在し、これが貧酸素水塊の一因となり、青潮の発生に影響を及ぼしているのではないかと考えられている。

そこで港湾工事中から発生する浚渫土砂を埋立用材として有効活用し、海域環境の改善を図り、また、学識経験者を含めた関係者等による委員会を設置し、技術的な検討を行う。

#### 事業概要

阪南2区沖窪地（位置図に示すNo.12の箇所）に大阪港主航路から発生する浚渫土砂を投入する。

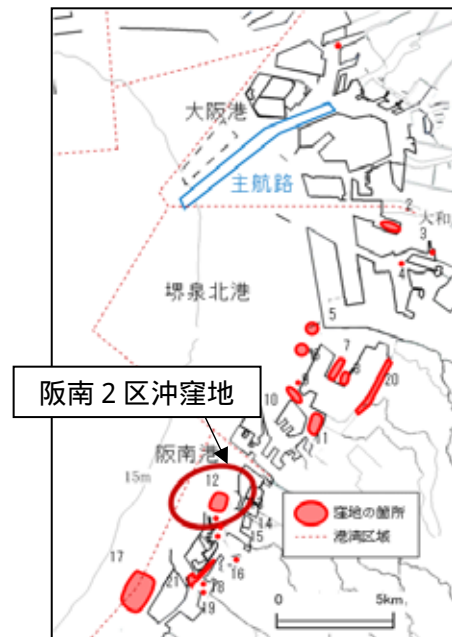
全体浚渫土量：670万m<sup>3</sup>

事業期間：整備期間H20～H32 モニタリングH22～

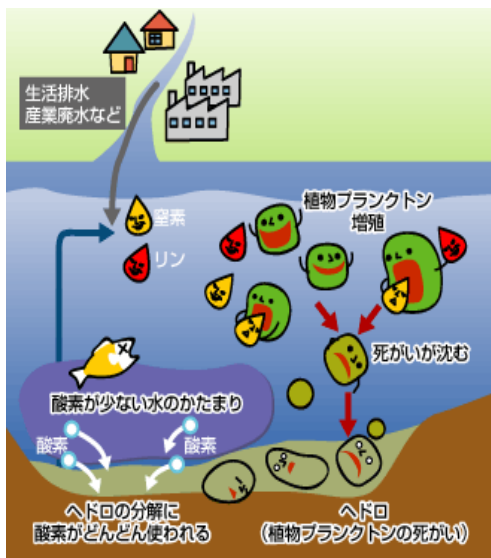
#### モニタリング概要

- |       |  |
|-------|--|
| 水質調査  | 水質計（水温、塩分、濁度、DO、pH）<br>採水（硫化物濃度）           |
| 底質調査  | 採泥（粒度組成、強熱減量、全窒素、全リン、<br>全硫化物、COD、Fe/Mn/P） |
| 底生物調査 | 採泥（種同定、個体数・湿重量）                            |

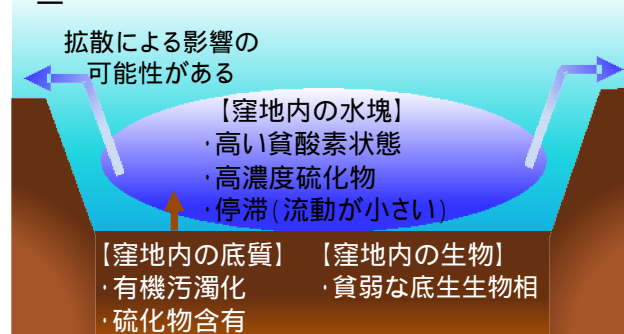
【位置図】



【窪地における環境悪化のイメージ】



【窪地の環境イメージ】



窪地修復（阪南2区試験施工）の概要

## 2-2-2 多様な生物の生息・生育

### (1) 藻場・干潟等の創出

藻場造成（泉佐野市地先に0.6haの藻場を造成（予定））及びモニタリングの実施＜継続＞

人工海浜造成（堺2区北泊地に約0.5haの人工海浜を造成）＜継続＞

環境創造型護岸の経過観察＜継続＞

生物共生型護岸の順応的管理＜継続＞

行動計画においては、多様な生物の生息・生育を実現するために、極力、藻場・干潟といった浅海域の整備を行うものとしています。また、既存の護岸、岸壁、防波堤等の直立人工構造物については、生物多様性を確保するための環境改善機能を付加することを目指すこととしています。

今年度は、藻場、砂浜等の整備及びモニタリング調査、環境創造型護岸の経過観察、生物共生型護岸の順応的管理を継続して行いました。

藻場、砂浜等の整備及びモニタリング調査

藻場：泉佐野市地先に0.6ha造成完了（予定）[大阪府]

神戸市垂水地先に造成した藻場（増殖場）においてモニタリング調査を実施  
[兵庫県]

砂浜：堺2区北泊地に人工海浜約0.5haを造成[堺市]

環境創造型護岸の経過観察

環境創造型護岸の経過観察による沿岸域生態系の形成状況の把握を行った。（より広い沿岸域に藻場創出を行うために有効な技術の検討）[神戸市]

生物共生型護岸の順応的管理

堺2区北泊地に整備した生物共生型護岸でのモニタリングを実施し、二枚貝、アオノリ、メバルなどの生息が認められた。[神戸港湾空港技術調査事務所]

次年度以降も、上記の事業などを継続する予定です。



餌料培養礁(石)



餌料培養礁(瓦)



餌料培養礁(貝殻)



増殖場(藻場・エサ場等)



写真提供：神戸市

環境創造型護岸の経過観察の状況

写真提供：大阪府

藻場整備のイメージ（泉佐野市地先）

## 2-2-3 親水性の向上

### (1) 親水空間の整備、親水活動の実施

「港都 神戸グランドデザイン」の推進を目的とした協議会を設立【新規】

人工海浜造成（堺2区北泊地に約0.5haの人工海浜を造成）＜継続＞

基幹的広域防災拠点緑地の整備を実施＜継続＞

なぎさ海道ウォーク、阪神なぎさ回廊ウォークの実施＜継続＞

行動計画においては、臨海部における親水性の高い交流拠点や公園緑地の整備を進めることとしています。

また、人と海とが豊かに触れ合う魅力ある海辺空間の象徴として、「なぎさ海道」、「なぎさ海道ウォーク」等による活動を今後も推進することとしています。

今年度は、「港都 神戸グランドデザイン」の推進を目的とした協議会を設立〔神戸市〕するとともに、堺2区北泊地に人工海浜約0.5haの造成を実施〔堺市〕したほか、来年度供用開始に向けて基幹的広域防災拠点緑地の整備を実施〔近畿地方整備局港湾空港部〕しました。

また、昨年度に引き続き、なぎさ海道ウォーク〔一般財団法人 大阪湾ベイエリア開発推進機構〕及び阪神なぎさ回廊ウォーク〔兵庫県〕を実施しました。

次年度以降も、上記の事業などを継続する予定です。

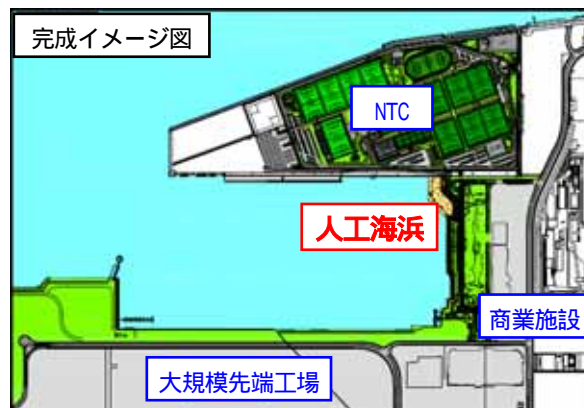
#### 【参考】

- ・なぎさ海道ウォーク：参加者 16,566 人、60 回実施（大阪湾沿岸、平成 23 年 12 月 31 日時点）
- ・阪神なぎさ回廊ウォーク：参加者 6,533 人、6 回実施（大阪湾沿岸、平成 24 年 1 月時点）



写真提供：神戸市

「港都 神戸」グランドデザイン協議会



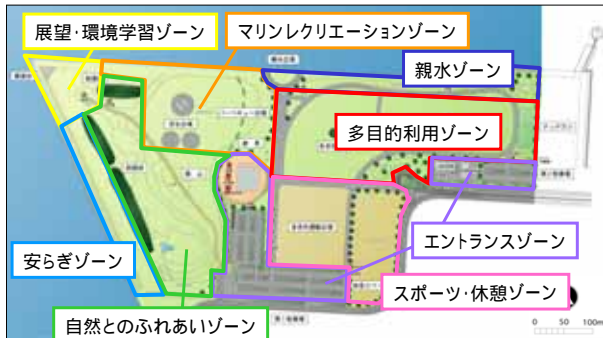
イメージ図提供：堺市

人工海浜（完成イメージ）



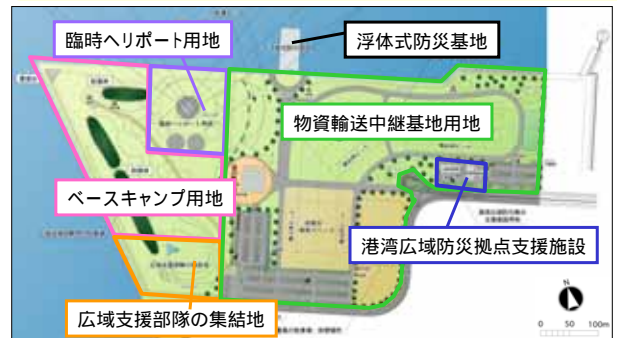
**【平常時】**

災害時にオープンスペースとして確保する必要があるため、広く平坦な土地を港湾緑地として整備。市民の憩いの場、防災啓蒙活動拠点として活用。



**【災害時】**

耐震強化岸壁、ヘリポート、臨海道路を活用し、救援物資の受け入れ・中継・分配・搬送を行うとともに、広域支援部隊の終結・ベースキャンプとして機能する。



イメージ図提供：近畿地方整備局  
基幹的広域防災拠点緑地（完成イメージ）



写真提供：一般財団法人 大阪湾バイエリア開発推進機構

なぎさ海道ウォーク



写真提供：兵庫県

阪神なぎさ回廊ウォーク

（尼崎西宮芦屋港 尼崎関門（尼ロック）付近）

## 2-2-4 浮遊・漂着・海底ごみの削減

### (1)ごみ回収（漂着・浮遊・海底ごみ）

「大阪湾クリーン作戦」、「リフレッシュ瀬戸内」、海洋環境整備船による浮遊ごみ回収<継続>

行動計画においては、ごみ発生防止に当たっては、「大阪湾クリーン作戦」や「魚庭（なにわ）の海づくり大会」、南港野鳥園、阪南市福島海岸等での「港湾・海岸美化活動」などの河川、海域における住民、NPO、企業などが実施しているあらゆる美化活動と連携し、さらにこの活動を発展させ投棄ごみの削減を目的とした環境広報活動等を行うこととしています。また、海底ごみについて大阪湾全域を対象とした漁業者の協力を引き続き得ながら回収活動を行うこととしています。

今年度は、昨年度に引き続き、「大阪湾クリーン作戦」[第五管区海上保安本部]、「リフレッシュ瀬戸内」[海の路ネットワーク推進協議会]、海洋環境整備船による浮遊ごみ回収[近畿地方整備局港湾空港部]などを実施しました。

次年度以降も、上記の事業などを継続する予定です。

#### 【参考】

- ・大阪湾クリーン作戦：7,311人参加、602t回収[第五管区海上保安本部]
- ・リフレッシュ瀬戸内：308人参加、6.5t回収(兵庫県分)、114人参加、0.8t回収(大阪市分)[海の路ネットワーク推進協議会]
- ・海洋環境整備事業(海洋環境整備船による浮遊ごみ回収)：557.1t回収[近畿地方整備局港湾空港部]



写真提供：第五管区海上保安本部

なにわの海クリーン作戦（平成23年6月1日）



写真提供：神戸市

須磨海岸クリーン作戦  
（平成23年6月26日）



写真提供：第五管区海上保安本部

大阪府二色の浜海岸清掃  
（平成23年6月26日）



写真提供：大阪市

リフレッシュ瀬戸内



写真提供：近畿地方整備局

海洋環境整備船による  
浮遊ごみ回収

## (2) ゴミ回収の効率化に向けた汚濁機構の解明

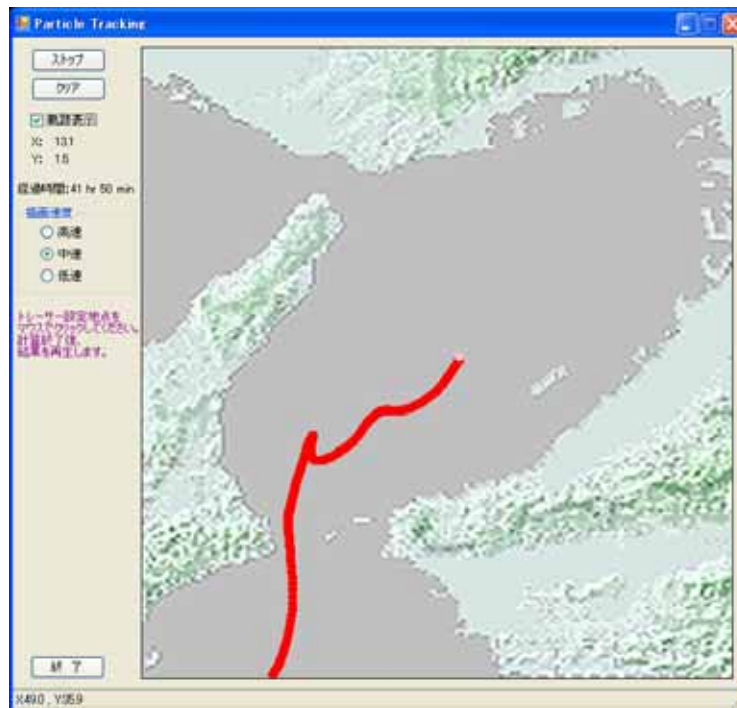
### 海洋レーダを利用した浮遊ゴミ・流出油等による汚濁の機構解明 < 継続 >

行動計画においては、ごみの回収に当たって、回収効率の向上を目指し、精度の高い浮遊ゴミ分布予測システムの構築、回収履歴等のデータベース化について検討を進めることとしています。

今年度は、海面の流況を計測している海洋短波レーダの観測値と、大阪湾内 13 地点に設置している定点自動観測機器による連続観測値(平成 22 年度より観測開始)を有効活用し、「流動・水質シミュレーションモデル」の高度化を図りました。[神戸港湾空港技術調査事務所] 今後、モデルを実用化することにより、浮遊物の挙動予測などが可能となります。

次年度以降も、「流動・水質シミュレーションモデル」の実用化に向けての検討を行う予定です。

### 【粒子追跡予測表示例】



画面に表示される大阪湾内に、トレーサーを置くと3次元流動解析の予測結果をもとに、トレーサーの移動を計算し、その結果を画面上で表示するものです。

インターフェイス上において、マウスクリックによりトレーサー開始地点を設定すると、粒子追跡予測計算を実行し、トレーサー移動の描画を行います。また、流動軌跡表示の有無、描画速度の設定を行うことができます。

### 「流動・水質シミュレーションモデル」の実用化による解析例

## 2-3 大阪湾再生のためのモニタリング

### 2-3-1 環境監視のためのモニタリング

#### (1) 効率的・効果的なモニタリングの実施

国、沿岸府県、臨海部の事業者・企業及び大学との連携による「大阪湾再生水質一斉調査」（第8回）＜継続＞

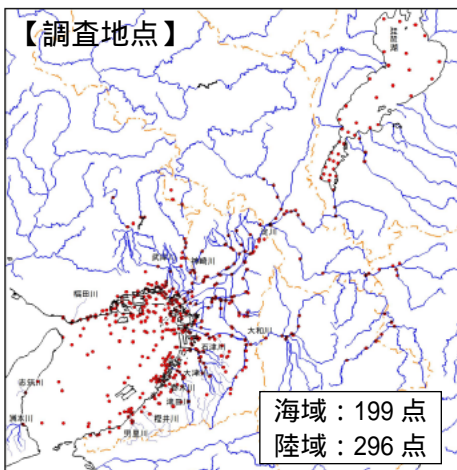
行動計画においては、効果的かつ効率的なモニタリングを実施するために、調査項目等の統一化・集約化を行っていく必要があることから、関係機関が連携したモニタリングの実施体制を検討することとしています。

平成16年度から、国、自治体、研究機関、企業などと連携した大阪湾再生水質一斉調査を行っています。今年度は、平成23年8月5日を中心に、海域199地点（28機関）、陸域296地点（16機関）の計495地点で調査を実施しました[大阪湾再生推進会議]。調査の結果いろいろな気象状況下での水質状況を把握することが出来ました。

次年度以降も、水質一斉調査を継続する予定です。

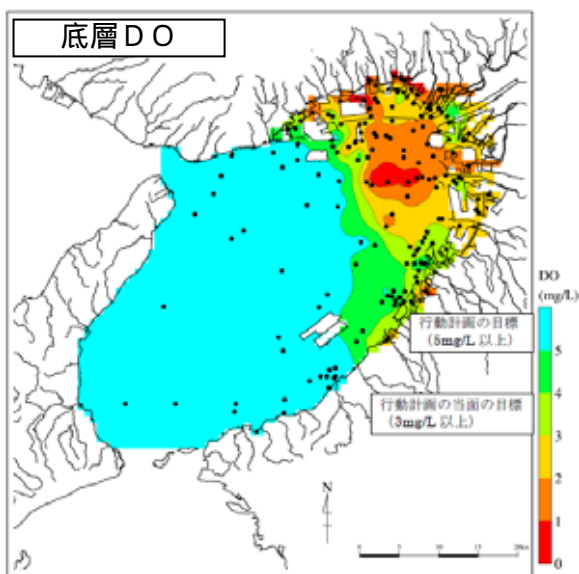
#### 【調査内容】

- ・測定水深の統一化を図り大阪湾全域での水質水平分布を把握
- ・あわせて水平的、鉛直的な水塊構造の把握を目的に測線調査を実施

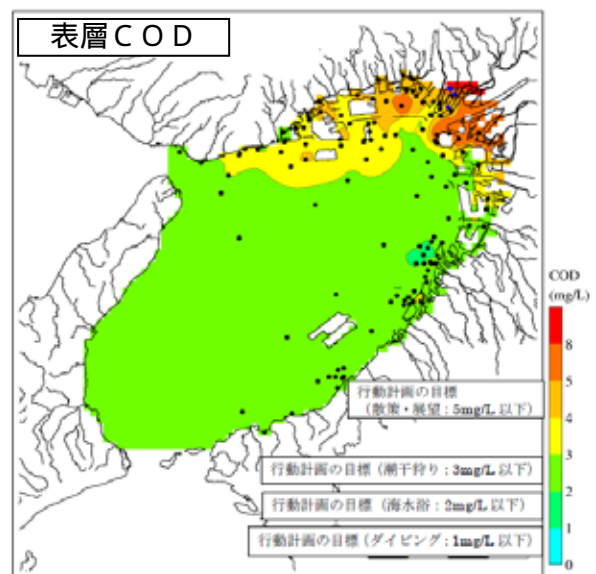


#### 【地点数と機関数】

		H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
海域	地点	160	206	217	208	194	214	204	199
	機関	12	20	22	24	28	31	28	28
陸域	地点	250	242	266	253	246	262	266	296
	機関	18	17	17	17	16	16	16	16



※等値線は、実測データを補間して作成しており、必ずしも実測の位置を示すものではない



※等値線は、実測データを補間して作成しており、必ずしも実測の位置を示すものではない  
※青色の調査地点(尼崎港付近)は、バックテストによる結果を示す

#### 大阪湾再生水質一斉調査（平成23年度）の調査状況

## (2) モニタリングの充実

広域総合水質調査、瀬戸内海総合水質調査、大阪湾環境保全調査、公共用水域水質調査等の実施<継続>

行動計画においては、湾再生において各種環境改善施策を視野に入れてモニタリングの内容を一層充実していくこととしています。

今年度は、引き続き以下の調査等を実施しました。

- ・広域総合水質調査 [ 環境省 ]
- ・瀬戸内海総合水質調査 [ 近畿地方整備局港湾空港部 ]
- ・大阪湾環境保全調査 [ 第五管区海上保安本部 ]

第五管区海上保安本部では、大阪湾における海の再生に向けた効果的な施策の実施及び検証に資することを目的とし、大阪湾環境保全調査を毎月実施しています。

8月調査では、大阪湾水質一斉調査に参画し、所属の測量船を使用して湾奥部を中心とした19ポイントで水温、塩分、D O、p H、透明度等を観測し、モニタリングの充実に貢献しています。

- ・公共用水域水質調査 [ 各府県市 ]

次年度以降も、これらの調査等を継続する予定です。



写真提供：近畿地方整備局

### 瀬戸内海総合水質調査（水質・底質調査の状況）



写真提供：第五管区海上保安本部

### 大阪湾環境保全調査

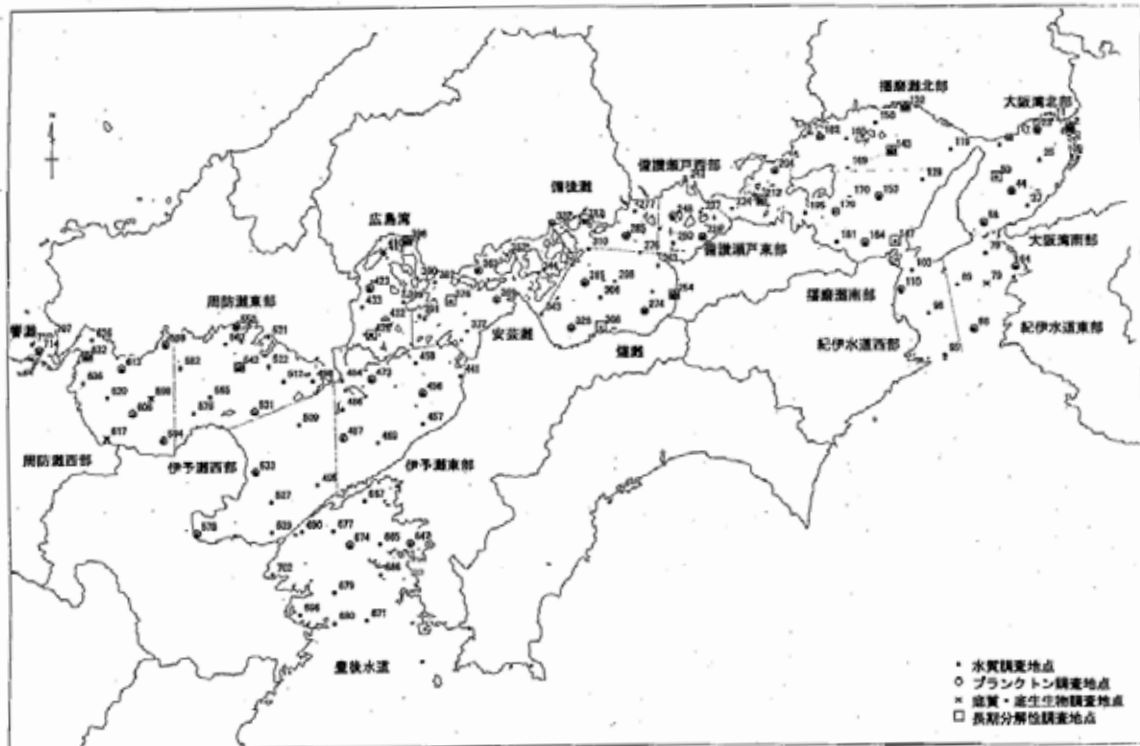
平成22年度広域総合水質調査結果（春季）

調査地点	層	水温( )	透明度(m)	DO(mg/ )	COD(mg/ )	全窒素(mg/ )	全リン(mg/ )
2	上層	16.4	5.0	7.3	2.3	1.00	0.063
	下層	14.2	5.0	3.5	1.8	0.80	0.080
5	上層	16.7	3.5	8.0	3.3	1.10	0.045
	下層	13.8	3.5	5.4	1.9	0.39	0.042
25	上層	16.0	9.5	8.8	2.1	0.30	0.035
	下層	14.7	9.5	8.2	1.6	0.26	0.021
11	上層	15.9	2.6	9.4	4.0	0.44	0.047
	下層	14.9	2.6	3.4	2.2	0.51	0.124
23	上層	15.8	1.8	10.2	4.6	0.40	0.048
	下層	14.5	1.8	7.3	2.0	0.25	0.029
48	上層	15.5	6.5	8.5	1.8	0.22	0.021
	下層	15.1	6.5	8.3	1.7	0.15	0.019
37	上層	15.6	7.8	9.0	2.0	0.36	0.017
	下層	14.1	7.8	8.1	1.4	0.22	0.027
44	上層	15.8	8.4	8.7	1.6	0.17	0.017
	下層	15.5	8.4	8.2	1.8	0.19	0.022
50	上層	16.0	7.0	9.0	1.6	0.27	0.020
	下層	15.8	7.0	7.9	1.3	0.24	0.022
58	上層	15.4	9.0	9.1	1.9	0.26	0.018
	下層	16.0	9.0	8.3	1.5	0.21	0.017

(注1) 調査項目について、一部抜粋している。

(注2) DO及びCODは小数点第2位、全窒素は小数点第3位、全リンは小数点第4位をそれぞれ四捨五入している。

(注3) 調査地点は、下図「広域総合水質調査調査地点【瀬戸内海】」参照。



広域総合水質調査 調査地点【瀬戸内海】

### (3) モニタリング結果の一般への提供

#### せとうちネットの情報提供内容の更新等 < 継続 >

行動計画においては、得られたモニタリング結果は、市民にわかりやすい形で、広く一般に提供することとしています。

今年度は、「せとうちネット」を「閉鎖性海域ネット」の中に取り入れ、提供情報の再構成を行いました [ 環境省 ]

次年度以降も、情報提供内容の更新を継続する予定です。



The screenshot shows the 'Setouchi Net' website interface. On the left is a blue sidebar with the text 'SETOUCHI NET INDEX' and navigation links: '瀬戸内海とわたしたち', '瀬戸内海の情報', 'リンク', and 'サイトマップ'. The main content area has a header with the 'せとうちネット' logo and the tagline '瀬戸内海の情報提供と創造をめざして'. Below the header are three main sections: 'せとうちだより' (with a link to 'せとうちネットについて'), '瀬戸内海とわたしたち' (with bullet points about the sea's importance and local involvement), and '瀬戸内海の情報' (with a list of information categories like natural environment, social/economic, and pollution). A 'リンク' section is at the bottom. A footer note states: 「せとうちネット」は環境省が瀬戸内海の情報提供のためのコーナーで、環境省 水・大気環境局 水環境課 閉鎖性海域対策室が運用しています。

せとうちネット ([http://www.env.go.jp/water/heisa/heisa\\_net/setouchiNet/seto/](http://www.env.go.jp/water/heisa/heisa_net/setouchiNet/seto/))

## 2-3-2 環境改善施策の効果の把握等に係るモニタリング

### (1) アピールポイント付近でのモニタリングの実施

生物共生型護岸でのモニタリングを実施 < 継続 >

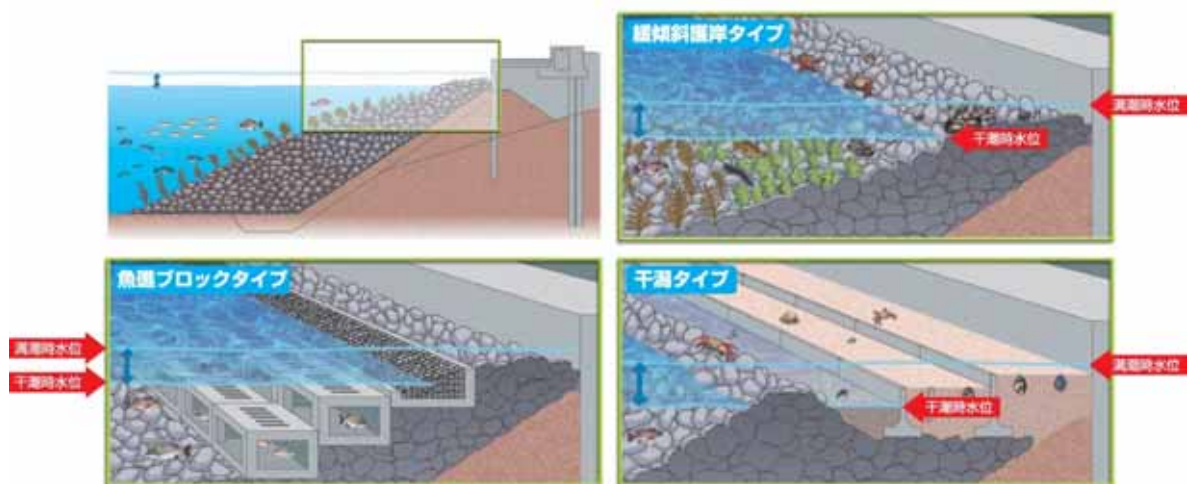
市内河川魚類生息状況調査の実施 < 継続 >

行動計画においては、主として各種施策が講じられるアピールポイント付近を対象に、施策の効果が期待できる環境指標、市民にわかりやすい指標等のモニタリングを実施することとしています。

今年度は、堺 2 区生物共生型護岸でのモニタリング [ 神戸港湾空港技術調査事務所 ] を実施し、二枚貝、アオノリ、メバルなどの生息を確認しました。また、大阪市において市内河川魚類生息状況調査 [ 大阪市 ] を実施しました。大阪市の河川には水質改善とともに、多くの魚類の生息が確認されています。

大阪市では、平成 3 年度から 5 年ごとに年 4 回（四季）にわたって魚類生息状況調査を行っています。魚類を用いた水環境の評価方法は、D0 や BOD など個々の理化学的なデータから測ることのできない、総合的な水環境について評価するものです。平成 18 年度調査では、きれいな水にすむ魚を含め 39 種が確認されました。

次年度以降も、上記の事業などを継続する予定です。



イメージ図提供：神戸港湾空港技術調査事務所

### 堺泉北港堺 2 区北泊地の生物共生型護岸



出典：大阪市水環境計画

### 市内河川魚類生息状況調査



## 2-3-3 市民参加によるモニタリング

### (1)大阪湾生き物一斉調査の実施

多くの市民の協力のもと、大阪湾沿岸に棲息する生き物の調査により水環境を把握する取り組みとして、「第4回大阪湾生き物一斉調査」を実施<継続>

行動計画においては、市民参加を促進するためには、市民にとってわかりやすく、地域の生活や興味と密着したテーマのモニタリング活動の場を提供することが重要であるとしています。

大阪湾生き物一斉調査は、大阪湾沿岸の生き物を調査することで、市民の大阪湾への関心を高めるとともに、大阪湾の水環境を把握するために平成20年度から実施しています  
[神戸港湾空港技術調査事務所]

調査の結果、392種の生き物が確認されるとともに、ハクセンシオマネキ(カニ)やウネナシトマヤガイ(二枚貝)など51種類の貴重種が確認されました。また、大阪湾沿岸に棲む生き物の分布状況についての貴重な情報が得られました。

次年度以降も継続的に実施し、生き物やそこからみえる水環境の変遷を経年的にみていく予定です。

[調査場所] 18箇所

[調査日] 6月4日(土)を中心に実施

[参加者] 931名(18団体)

[調査内容]

- ・所定の調査シートに確認した生き物を記入
- ・参加者が判断できなかった生き物は専門家により分類
- ・調査後、事務局が調査シートを収集し、集計

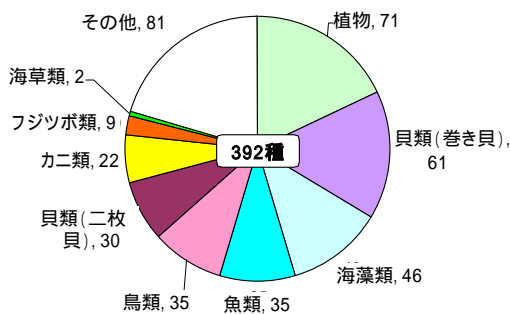
[今年度の調査テーマ]

- ・水質を調べてみよう
- ・キタフナムシをさがそう

[調査場所]



### 【分類群ごとの確認種】



#### 【兵庫県内】

調査地点	担当団体
1 アジュール舞子	須磨海浜水族園ボランティア
2 香櫛園浜	西宮自然保護協会
3 甲子園浜海浜公園	NPO法人 海浜の自然環境を守る会 生き生き地球館 こどもエコクラブ
16 洲本市大浜	国立公園成ヶ島を美しくする会

#### 【大阪府内】

調査地点	担当団体
4 矢倉海岸	西淀自然文化協会
5 十三干潟(淀川)	(社)大阪自然環境保全協会 淀川自然観察会 [6/5]
6 大阪南港野鳥園	大阪南港野鳥園
7 高師浜	浜寺公園自然の会

#### 【大阪府内】

調査地点	担当団体
8 大津川河口	
9 阪南二区埋立地	きしわだ自然資料館
10 近木川河口	NPO法人 シニア自然大学校 森と海の自然科 [6/2]
11 二色の浜・近木川河口	貝塚市立自然遊学館 [5/15]
12 櫻井川河口 岡田浦海岸	男里川干潟を守る会
13 男里川河口干潟	
14 せんなん里海公園	里海くらぶ連絡協議会
15 妻川(落合川)河口	きしわだ自然資料館 [6/5]
17 堺2区埋立地	(社)大阪自然環境保全協会 [6/5] NPO法人 釣り文化協会 [6/5]
18 大阪湾 「スナメリ調査」	大阪コミュニケーションアート 専門学校、海遊館 [6/3]



ハクセンシオマネキ



ウネナシトマヤガイ



写真提供：神戸港湾空港技術調査事務所  
調査の状況

## 2-3-4 大阪湾における汚濁機構をより詳細に解明するためのモニタリング

### (1) 水質定点自動観測の実施及びデータ配信

水質定点自動観測の実施 < 継続 >

「流動・水質シミュレーションモデル」の高度化 < 継続 >

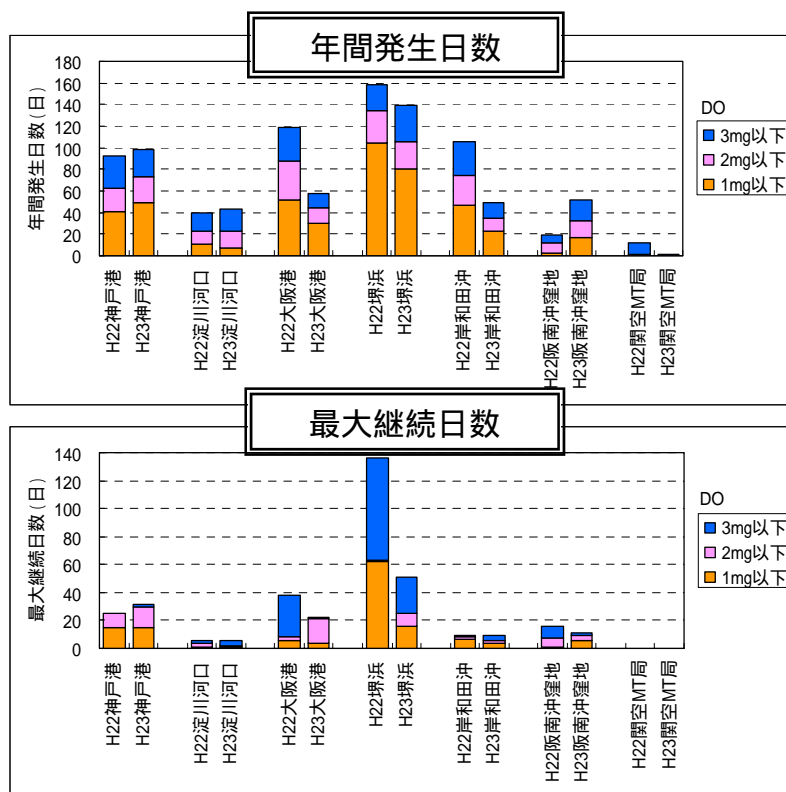
行動計画においては、これまで実施している貧酸素水塊調査をさらに充実させるとともに、一層詳細に汚濁機構を解明するために平成16年度より汚濁機構解明のために必要なモニタリング手法や体制を検討することとしています。

今年度は、大阪湾内13地点に設置している定点自動観測機器による水質定点自動観測を昨年度に引き続き実施するとともに、海面の流況を計測している海洋短波レーダの観測値とあわせてデータを有効活用し、「流動・水質シミュレーションモデル」の高度化を図りました〔神戸港湾空港技術調査事務所〕今後、モデルを実用化することにより、日々変化する外部条件を取り入れ、DO、塩分等の時間変化を再現することなどが可能となります。

次年度以降も、調査を継続実施するとともに、「流動・水質シミュレーションモデル」の実用化に向けての検討を行う予定です。

### 【水質定点自動観測 調査結果例】

#### 貧酸素水塊の年間発生日数・最大継続日数（5～10月）

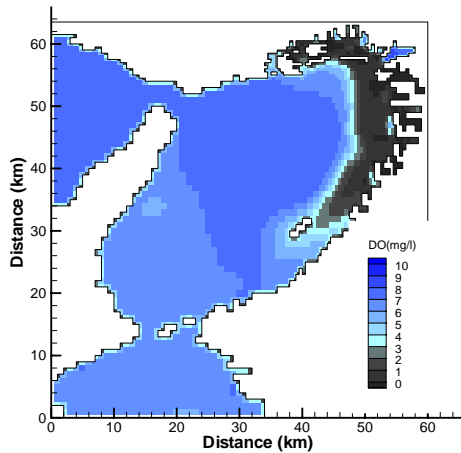


データは速報値であり、今後修正する可能性がある。

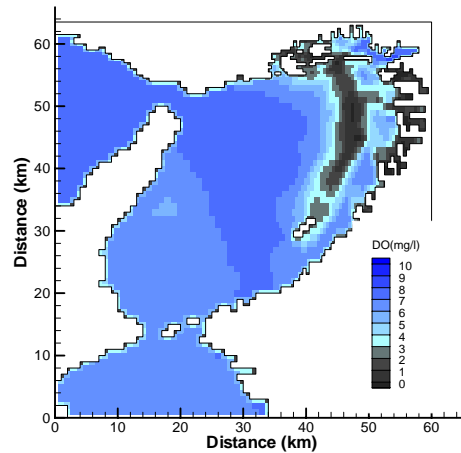
- ・5～10月における貧酸素水塊の発生日数は、湾奥部の神戸港、大阪港、堺浜、及び岸和田沖で多い
- ・湾奥部でも、水深が浅く、比較的海水交換の良い淀川河口部は少ない。
- ・堺浜は湾奥部に位置するとともに水深の深い窪地となっているため、発生日数とともに継続日数も最も多い。
- ・堺浜と比較して、神戸港、大阪港、岸和田沖はDOの変動が大きいため、継続日数は短くなっている。
- ・関空MT局を除いて、3mg/L以下となる期間が5日以上存在しており、生物生息環境としては厳しい状況となっている。

【水質再現計算結果例】

風況変化に伴う貧酸素水塊の挙動(下層DO平面図(計算値))



2010/7/11 12:00



2010/7/12 18:00

強風が吹き始めた11日の12時時点では、貧酸素水塊は大阪湾の湾奥沿岸部まで広く発達している。吹き始めから12時間後には大阪湾の北部、南東部の沿岸で貧酸素水塊の解消が起き始め、その後、時間の経過とともに貧酸素水塊の解消エリアが沿岸から沖方向へ拡大していく様子を再現できた。



観測データでは捉えることの出来なかった気象擾乱に対する貧酸素水塊の平面的な動態を明らかにすることができ、流動・水質シミュレーションモデルと組み合わせることで、水質定点自動観測システムデータの更なる有効活用が期待できます。

「流動・水質シミュレーションモデル」の実用化による解析例

## 2-3-5 情報の共有化及び発信

### (1)大阪湾環境データベース

#### 大阪湾環境データベースの情報提供内容の更新 < 継続 >

行動計画においては、大阪湾環境データベースを活用して大阪湾再生のためのモニタリングに関する情報・データを一元的に集約・管理し、発信することにより、情報を広く有効に活用することとしています。

今年度は、大阪湾環境データベースの情報提供内容の更新を行いました [ 神戸港湾空港技術調査事務所 ]

次年度以降も、コンテンツの改良、追加を随時実施する予定です。



大阪湾環境データベース ( <http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/> )

## 2-4 アピールポイントにおける施策の推進

### (1) 尼崎臨海部、堺浜周辺における集中的・先駆的な取り組み

水環境やパブリックアクセス改善のための集中的かつ先駆的な取り組み < 継続 >

#### 尼崎臨海部における集中的・先駆的な取り組み

- a. 尼崎市北部浄化センター、東部浄化センターにおいて高度処理化を継続実施 [ 兵庫県 ] ( 流入負荷の削減 )
- b. 尼崎臨海地域の緑化 ( 尼崎の森中央緑地 ) [ 兵庫県 ] ( 緑地整備 )
- c. 海岸環境整備事業 [ 兵庫県 ] ( 遊歩道整備、植栽等 )

#### 堺浜周辺における集中的・先駆的な取り組み

- a. 再生水送水事業 [ 堺市 ] ( 下水処理水の有効利用 )
- b. 窪地埋め戻しの検討 [ 近畿地方整備局港湾空港部 ] ( 水質の改善 )
- c. 堺泉北港堺 2 区人工干潟の整備 [ 大阪府 ] ( 人工干潟整備 )
- d. 基幹的広域防災拠点緑地の整備 [ 近畿地方整備局港湾空港部 ] ( 緑地整備 )
- e. 生物共生型護岸の順応的管理 [ 近畿地方整備局港湾空港部 ] ( 護岸への環境改善機能付加 )
- f. 人工海浜 ( 約 0.5ha ) の整備 [ 堺市 ] ( 人工海浜整備 )

また、次年度以降も、これらの改善効果が早期に発現するよう、上記の取り組みを継続する予定です。



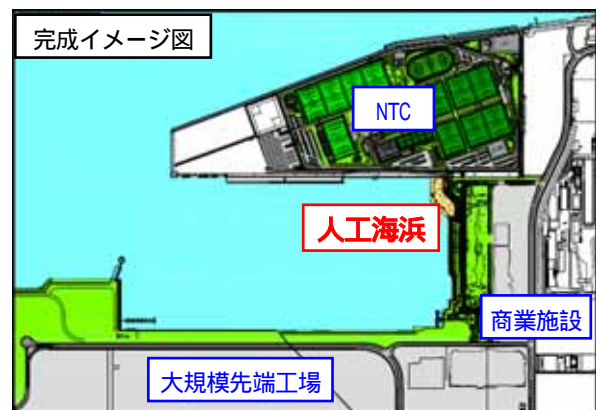
写真提供：兵庫県

海岸環境整備事業 ( 尼崎臨海部 )



イメージ図提供：大阪府

人工干潟 ( 堺浜 ( 堺 2 区 ) )



イメージ図提供：堺市

人工海浜完成イメージ ( 堺浜 ( 堺 2 区 ) )

## 2-5 平成 23 年度の重点的な取り組みへの対応

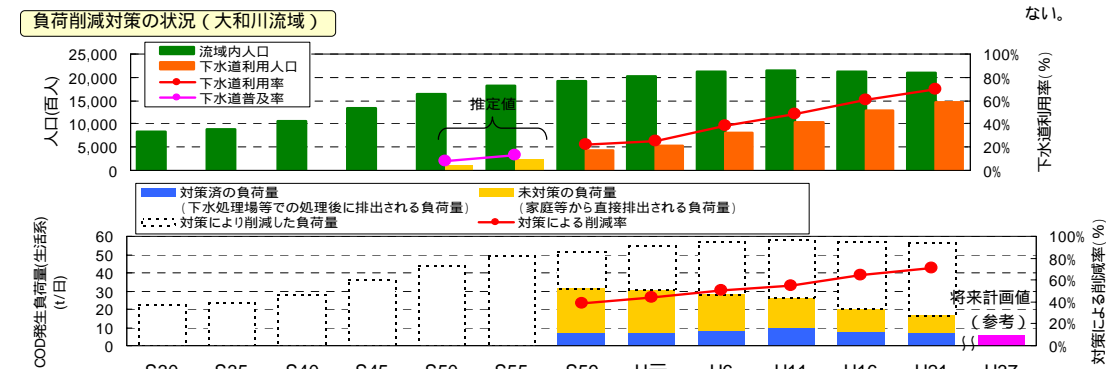
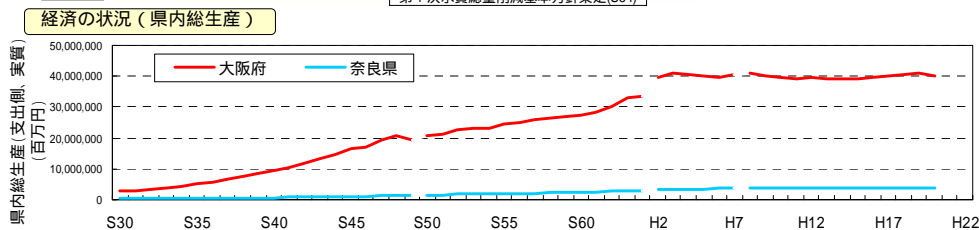
### (1) 陸域負荷削減効果の評価とアピール

下水道整備等による汚濁負荷削減、下水処理水の有効活用、森林整備等による環境改善効果等の検討・PR < 継続 >

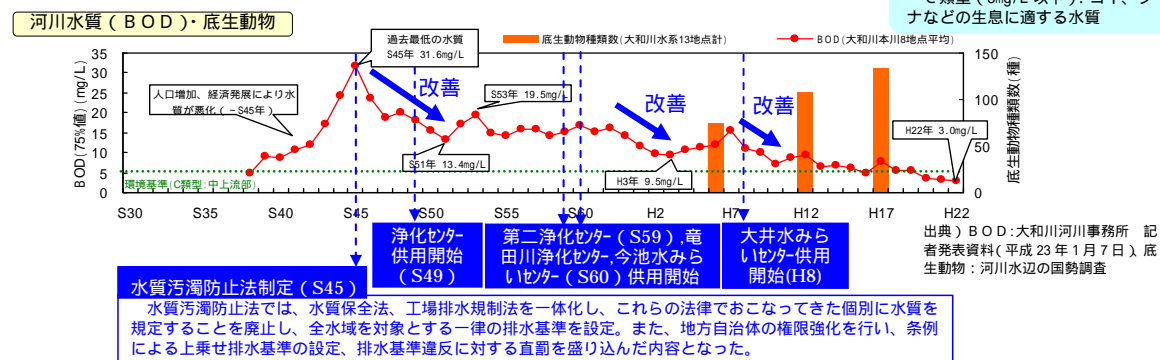
陸域における取り組みを広く市民の方々に向けてPRするため、下水道整備等による汚濁負荷削減、下水処理水等の活用、森林整備等について、取り組み状況や環境改善効果の検討を行いました。

来年度以降も、継続して検討及びPRを行う予定です。

#### 【下水道整備等による汚濁負荷削減(大和川流域)】



平成 37 年度(将来計画値)は平成 16 年度以前と算定方法が異なるため、両者の単純な比較はできない。  
出典) S59~H16: 発生負荷量等算定調査報告書(環境省), H37: 大阪湾流域別下水道総合計画基本方針資料より算定



## (2) 表彰制度の継続・発展

### 大阪湾再生に関する活動を表彰する『魚庭の海』賞の募集・選考<継続>

大阪湾やその周辺地域で長年にわたり続けてこられた様々な環境保全活動を表彰する、『魚庭の海』賞（第3回）の募集・選考を行い、『魚庭の海』大賞1点、『魚庭の海』賞4点が選ばれました。また、応募団体を対象とした活動の発表会を実施した後に、新たに学識者と応募団体で意見交換会（フリートーク）を実施しました。

#### 賞の目的

大阪湾再生行動計画に関わる環境保全活動で顕著な実績を上げた個人または団体等に対して表彰を行い、広く一般に知らしめることで、地域に根ざした活動を一層推進する励みとしていただくとともに、大阪湾再生の取り組みの普及促進を図ることを目的とする。

#### 選考概要

募集期間：平成23年7月18日（海の日）～9月30日募集

選考結果：『魚庭の海』大賞1点、『魚庭の海』賞4点

応募団体を対象とした発表会、及び学識者を交えた意見交換会（フリートーク）を実施



意見交換会の状況（写真提供：近畿地方整備局）

## (3) 学識者との連携

### 大阪湾再生に関する勉強会を実施【新規】

大阪湾の環境や改善のための大阪湾再生の取り組みに対して、学識者を交えた勉強会を計2回開催しました。

第1回勉強会（平成24年2月15日）

講師：大阪大学大学院 西田修三教授

テーマ：大阪湾の水環境の変遷と現状

第2回勉強会（平成24年3月19日）

講師：大阪市立自然史博物館 山西良平館長

テーマ：

## (4) 行動計画の方向性検討

### 行動計画の方向性の検討を実施【新規】

平成25年度の行動計画終了を見据え、今後の行動計画の方向性について検討を行いました。

(5) 広報の強化

大阪湾再生の企画展（湾展）を開催＜継続＞

住民の方に大阪湾やその周辺の環境を身近に感じていただき、海の環境を改めて考えていただく機会にさせていただくため、大阪湾再生の企画展(湾展)を昨年度に引き続き開催しました。

今年度は、より多くの皆さんに取り組みを知っていただくため、各種イベントとあわせて計5箇所で開催しました。

実施日	実施場所	来場者
8/6(土)	大阪鶴橋鮮魚市場(ひる市)	約60人
9/12~9/13	日本沿岸域学会全国大会(広島)	-
10/23(日)	大阪南港 ATC 海辺のステージ(第10回魚庭の海づくり大会)	約450人
10/29~10/30	天保山(エコアートフェスタ大阪2011環境啓発ブースに出展)	約80人
11/22~12/4	奈良県立図書情報館	約300人



大阪鶴橋鮮魚市場



大阪南港 A T C 海辺のステージ



天保山イベント広場



奈良県立図書情報館



日本沿岸域学会(広島)

大阪湾の企画展(湾展)の様子(写真提供:近畿地方整備局)

(6) 行動計画期間を見据えた取り組みの重点化等の検討

市民参加による流入負荷削減等の検討＜継続＞

平成16年度以降、毎年大和川流域で実施している「生活排水対策社会実験」を他の流域でも展開するための検討を行いました。

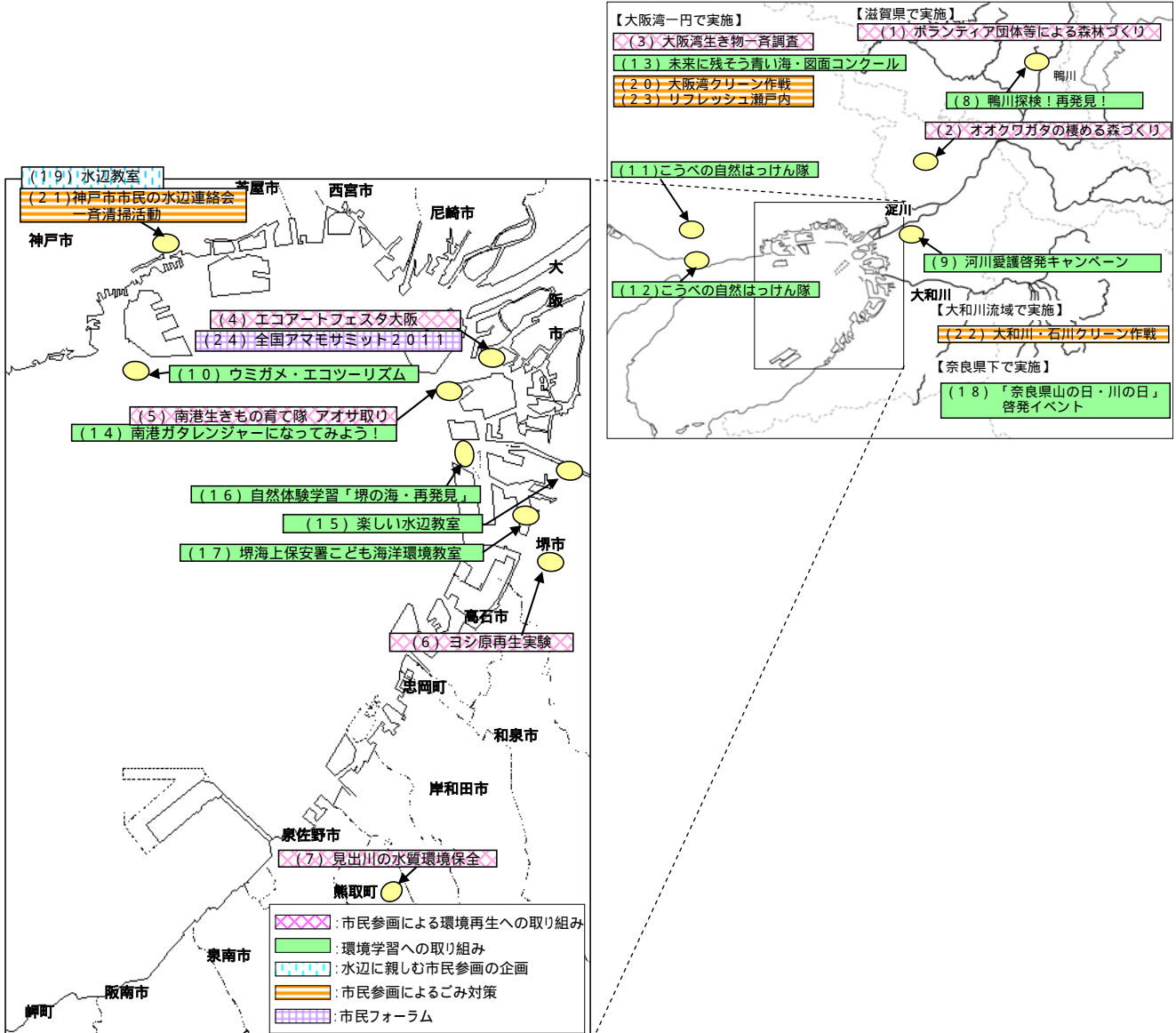


### 3. 市民参画による「大阪湾再生」の元気な取り組み（平成23年度の主な取り組み事例）

大阪湾再生に係る市民参画による取り組みとして、環境再生、環境学習、ごみ対策、市民フォーラムといった観点から計24件の取り組みが行われました。そのうち、2つの取り組み（No.17、No.24）について紹介します。

#### 【平成23年度の市民参画の取り組みの一覧】

区分	NO.	名称	実施場所
市民参画による環境再生への取り組み	(1)	ボランティア団体等による森林づくり	伊崎国有林(滋賀県近江八幡市)
	(2)	オオクワガタの棲める森づくり	箕面国有林(箕面体験学習の森)
	(3)	大阪湾生き物一斉調査	大阪湾沿岸等18箇所
		大阪湾生き物一斉調査結果発表会	大阪市立自然史博物館
	(4)	エコアートフェスタ大阪	天保山ハーバービレッジイベント広場(海遊館前広場)
	(5)	南港生きもの育て隊 アオサ取り	大阪南港野鳥園
	(6)	ヨシ原再生実験	石津川水系百済川
環境学習への取り組み	(7)	見出川の水質環境保全	見出川流域
	(8)	鴨川探検！再発見！第24弾～26弾	鴨川
	(9)	河川愛護啓発キャンペーン	中大江小学校
	(10)	神戸空港でのウミガメ保護と環境学習(ウミガメ・エコツアーリズム)	神戸空港島西緑地
	(11)	こうべの自然はっけん隊「伊川の生きものを調べてみよう！」	伊川
	(12)	こうべの自然はっけん隊「海辺の生きもの採集や観察をしてみよう！」	アジュール舞子
	(13)	平成23年度第12回未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール	-
	(14)	大阪市サマースクールシティ事業 南港ガタレンジャーになってみよう！	大阪南港野鳥園
	(15)	楽しい水辺教室	大和川河川敷(住之江区安立4丁目周辺 大和橋付近)
	(16)	自然体験学習「堺の海・再発見」	堺市周辺の海
	(17)	堺海上保安署こども海洋環境教室	堺市出島漁港
(18)	「奈良県山の日・川の日」啓発イベント	奈良県下	
水辺に親しむ市民参画の企画	(19)	水辺教室	神戸市内河川等
市民参画によるごみ対策	(20)	平成23年度第28回大阪湾クリーン作戦	大阪湾一円
	(21)	神戸市市民の水辺連絡会一斉清掃活動	神戸市内河川等
	(22)	大和川・石川クリーン作戦	大和川河川敷
	(23)	リフレッシュ瀬戸内	瀬戸内海沿岸(大阪湾沿岸含む)
市民フォーラム	(24)	全国アマモサミット2011	海遊館



大阪湾再生 市民参画の取り組み状況（平成 23 年度）

(1) 堺海上保安署こども海洋環境教室

海洋環境保全思想の普及啓発のため、海洋環境保全のための環境教室、水質実験（パックテスト）、パネル展示、巡視艇での大阪湾体験航海等を実施しました。

【場所】堺市出島漁港

【主体】堺海上保安署（協力：堺市漁業協同組合連合会、丸高渡船、堺市港湾事務所）

【取り組み状況】

目的：海洋環境保全思想の普及啓発を目的とする。

実施日：平成23年6月12日

参加者数：800名

内容：海洋環境保全のための環境教室、水質実験（パックテスト）、パネル展示、環境紙芝居、大阪湾に生きる魚たちの体感コーナー、巡視艇での大阪湾体験航海を実施



環境パネル展示コーナー



水質実験コーナー



環境紙芝居



体験航海

堺海上保安署こども海洋環境教室の実施状況

## (2) 全国アマモサミット2011

海の生物のゆりかごと呼ばれるアマモ場の再生に取り組む団体・行政・大学が研究発表や活動報告を行い、情報交換や交流の機会とする「全国アマモサミット2011」を開催しました。

【場所】海遊館

【主体】全国アマモサミット事務局（協働者：近畿地方整備局・三重・和歌山・島根・長崎・鹿児島大学・防衛大学・各県NPO団体多数・各県水産試験場・水技センター・福井水産高校・大阪湾見守りネット・海遊館）

【取り組み状況】

目的：海の生物のゆりかごと呼ばれるアマモ場の再生に取り組む団体・行政・大学が研究発表や活動報告を行い、情報交換や交流の機会とする。

実施日：平成23年11月20日

参加者数：220名

内容：研究発表や活動報告を行い、情報交換や交流の機会とする。



出典)「全国アマモサミット2011」実行委員会事務局HP

## 全国アマモサミット2011の実施状況

#### 4. 大阪湾再生に関する報道状況

新聞、テレビ、ラジオ等において、「大阪湾再生」に関する行政の施策や市民参加の取り組み等について広く報道されています。

以下に示すとおり、平成23年3月から平成24年2月までの1年間に、大阪湾再生に関する報道が計21件ありました。

##### 大阪湾再生に関する報道状況（平成23年3月～平成24年2月）

日付	媒体	タイトル等
2011/3/24	奈良新聞	大和川の水質改善へ やましんが県基金へ寄付
2011/5/19	神戸新聞	武庫川で天然アユ遡上調査 県事務所
2011/5/24	神戸新聞	海のゆりかご「アマモ」 洲本・成ヶ島に大群落
2011/5/30	奈良新聞	ホテル舞う清流へ意欲 導水社会実験「臭い減った」
2011/6/5	産経新聞	大阪湾 生き物いっぱい 高石・高師浜など一斉調査
2011/6/21	大阪日日新聞	淀川在来魚、回復の兆し ワンドのタナゴ類5倍増
2011/6/27	神戸新聞	真珠の養殖に挑戦(兵庫運河真珠貝プロジェクト)
2011/7/4	港湾空港タイムス	大阪港の航路浚渫着手 阪南港沖窪地を確保
2011/7/14	京都新聞	ごみ拾い大作戦 亀岡・保津川で市民ら清掃活動
2011/7/27	京都新聞	アユ2万匹鴨川に遡上 伏見・龍門堰5～7月推計
2011/8/1	港湾空港タイムス	共生護岸追跡調査 港湾整備に活用
2011/10/9	神戸新聞	アユの産卵場づくり「むこがわ探検隊」出動
2011/10/17	京都新聞	環境保全、見て触れて 大山崎と長岡京でイベント
2011/10/24	大阪日日新聞	豊かな大阪湾復活へ 魚庭の海づくり大会
2011/11/21	神戸新聞	尼崎で高校生フォーラム 大阪湾の環境テーマ
2011/11/27	NHKテレビ	あこや貝浜揚げ式(兵庫運河真珠貝プロジェクト)
2011/11/28	神戸新聞	兵庫運河で真珠とれた(兵庫運河真珠貝プロジェクト)
2011/11/28	朝日新聞	アコヤ貝水揚げ兵庫運河(兵庫運河真珠貝プロジェクト)
2011/12/15	東京FM	HondaSmileMission 兵庫運河・真珠貝プロジェクト
2012/1/12	毎日新聞	フォーラム：香櫨園浜テーマに 環境学習報告や神大教授が講演 2 1日、西宮／兵庫
2012/1/29	神戸新聞	尼崎運河を「青い海」に 水質浄化施設が稼動

媒体	件数(件)
朝日新聞	1
毎日新聞	1
産経新聞	1
大阪日日新聞	2
神戸新聞	7
京都新聞	3
奈良新聞	2
港湾空港タイムス	2
NHKテレビ	1
東京FM	1
合計	21